法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

法政大學講義録

塚田，達二郎 / 山崎，覺次郎 / 秋山，雅之介 / 中村，進午 / 清水，澄 / 梅，謙次郎

(出版者 / Publisher)
法政大學
(巻 / Volume)
1-1
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
56
(発行年 / Year)
1903-10-11

三十六年度 法政大學講義錄 第三

（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可
毎月九回一日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行）

明治三十六年十一月十一日發行

三十六年度

法政大學發行

法政大學編輯局

法政大學講義錄

第壹號

法政大學發行

第十壹年

明治三十六年十月十一日發行

（明治三十六年十月十一日第三種郵便物認可
毎月九回一日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行）

三十七年度

第一學年第一號目次

法學通論（自一至一二）　法學博士　中村進午

憲法（自一至八）　法學士　清水澄

民法總則（自第一章至第三章（自一至二四））　法學博士　梅謙次郎

民法物權（自第一章至第六章（自一至八））　法學士　塚田達二郎

國際公法（平時）（自一至八）　法學博士　中村進午

國際公法（戰時）（自一至二八）　法學士　秋山雅之介

經濟學（自一至八）　法學士　山崎覺次郎

雜報　○本大學ノ沿革○新學年授業開始ト梅總理ノ訓誨演說○討論會及ヒ講談會○判檢事試驗及ヒ辯護士試驗

090
1904
1-1-1

法學通論

法學博士　中村進午講述

緒言

法學通論トハ法律汎論ト謂フト同シク法律全體ニ通スル概念ヲ攻究スルモノナリ而シテ法律ノ何タルヤハ講義ノ進ムニ隨ヒ之ヲ理解スルコトヲ得ヘキカ故ニ茲ニハ先ツ字義上ヨリ解シ法律ノ何タルヤヲ簡單ニ一言セントス羅甸語、佛語、獨語等ニ於テハ正義ト權利ト法律トヲ言表ハスニ同一ノ詞ヲ以テセリ即チ羅甸語ノ「ジュス」佛語ノ「ドロアー」獨語ノ「レヒト」ナル文字ハ共ニ正義權利及ヒ法律ノ三意義ヲ有ス英語ニ於テハ法律ナル文字ト權利ナル文字トヲ言表ハスニ別種ノモノヲ以テス然レトモ英語ノ權利即チ「ライト」ハ同時ニ正義ヲフ

意味ニ用ヒラル此等ノ文字ニ徵スルニ法律ハ人ヲシテ正義ヲ行ハシムル趣旨ヲ以テ發生シタルモノナルコトヲ知ルヲ得ヘシ

次ニ支那ノ文字ニ就キ之ヲ法及ヒ律ノ二字ニ分チテ說明スヘシ

支那ニ於テハ法ナル文字ハ其源ヲ刑罰法ナル意味ニ用ヒタリ書經ノ中ニ「作三五虐之刑」曰「法」トアリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ法ナル文字ハ刑罰法ノ意義ニ用ヒラレタルコトヲ知ルニ足ル魏ノ文公ノ臣李悝法經六編ヲ作ルトアリ所謂法經六編ナルモノ即チ刑罰法ナリ日本ニ於テハ聖德太子ノ憲法ナルモノアリト雖モ是レ法律ニ非スシテ寧ロ道德敎ト謂フヘキモノナリ尙ホ法ナル文字ヲ形ノ上ヨリ解スルトキハ法トハ水ノ去ルヲ意味シ即チ公平ヲ得セシムルコトヲ言表ハシタルモノナリ或ハ曰ク法ナル文字ハ灋ノ略字ニシテ灋ハ惡夢ヲ食フ獸ナリ即チ法ナル文字ハ惡人ヲ罰スル字義ナリト

律ナル文字モ亦支那ニ於テハ刑罰法ノ意義ニ用ヒラレタルコト明カナリトス即チ漢ノ蕭何カ律九編ヲ作ルトアリ又隋律唐律アリ下リテ明律清律ナルモノアリ是レ皆刑罰法ノミヲ規定シタルモノナリ日本ニ於ケル律モ亦然リ即チ大寶ノ律養老ノ律共ニ刑罰法ニ外ナラス此ノ如ク古代ニ在リテハ法ナル文字ハ刑罰法ノミニ用ヒラレタルモノナリト雖モ近世ニ至リテハ法ナル文字ハ單ニ刑罰法ノミニ止マラス其他ノ法律ニモ用ヒラルルニ至リタリ即チ民法商法訴訟法比比皆然リ蓋シ刑罰法ハ社會ノ尙ホ幼稚ナル時代ニ於テモ其必要ニ迫ラレ最モ早ク發達セルモノナルヲ以テナリ

總論

第一章　法律ノ發生

法律ハ其他ノ事物ノ發生スルカ如ク自然ノ必要ニ迫ラレ人類ノ力ニ依リテ社會ニ出ツルモノナリ其所謂必要トハ人類カ團體ヲ爲シテ生活スルニ缺クヘカラサルコトヲ謂フ凡ソ二箇以上ノ人類相集マルトキハ互ニ意思及ヒ行爲ノ衝突ヲ來スモノナリ此衝突ハ箇人ノ利益ヲ害シ社會ノ秩序ヲ毀損スルモノナルコト文明ノ歷史ニ徵シテ明カナリ故ニ其衝突ヲ和ケシカ爲メニ各箇人カ如何ナル行爲ヲ爲スヘキカ如何ナル行爲ヲ爲スヘカラサルカヲ定ムルノ必要アリ

法律ノ目的ハ即チ共同生活ヲ爲ス所ノ各箇人ノ生存ヲ安全ニセンカ爲メニ箇人間ノ衝突ヲ防クニ在リ此衝突ヲ防カントスルニハ或程度マテ人ノ自由ヲ束縛スルコトヲ要ス人ノ自由ヲ束縛スルハ他方ヨリ觀察スルトキハ人ノ自由ヲ保護スルモノナリ蓋シ「ベンザム」ノ言フカ如ク法律ノ目的ハ最多數ノ人類ノ最大ノ幸福ヲ得セシムルニ在レハナリ例ヘハ竊盜强盜ヲ罰スルハ其盜賊ノ自由ヲ束縛スルモノナリト雖モ他方ヨリ觀ルトキハ被害者ヲ保護スルト同時ニ團體ノ全體ヲ安全ニシ且其自由ヲ保護スルモノナリ此ノ如ク少數ノ自由ヲ制限シテ多數人ノ幸福ヲ增進スルハ法律ノ最終ノ目的ナリ

以上述フル所ニ依レハ法律ハ團體ニ屬スル各員ノ行爲ヲ制限センカ爲メニ或種ノ方式ヲ充タサシメテ發シタルモノナリ而シテ其方式ノ如何ハ時代ニ依リ又土地ニ依リ相異ナルモノナリ「法律ニ古今東西ニ通スル大原則アルカ故ニ決シテ其軌道ヲ失スヘカラス」云云若シ此軌道ヲ脫シタル法律アレハ是レ法律ニ非ス」ト謂フカ如キハ古キ自然法學者カ唱ヘタル一種ノ誤謬ナリ近世ノ實見法派ノ學者ノ言フカ如ク法律ハ時代ニ依リ又場所ニ依リテ相異ナルモノナリ然リト雖モ前ニ述ヘタル如ク法律ハ生存ノ要件ヲ充タサンカ爲メニ發生スルモノナリトノ原則ハ古今東西ニ通シテ誤ラサルナリ

以上述フル所ヲ約言スレハ法律トハ團體ニ屬スル各員ノ意思及ヒ行爲ヲ制限スル所ノ一種ノ方式ニシテ之ニ依リテ人類社會ノ生存ノ安全ヲ維持スルモノナリ

第二章　法律ノ維持

前章ニ述ヘタルカ如クニシテ發生シタル法律ハ如何ニシテ安全ニ行ハレ其效果ヲ奏スルコトヲ得ルヤ太古及ヒ上古ニ於テハ法律ヲ維持スルコトヲ一ニ各團體員自身ノ力ニ委ネタリ自身ノ力ニ委ヌトハ法律ノ保護ヲ受クヘキ者カ自己ノ獨力ヲ以テ自己ヲ防禦スルニ一任スルヲ謂フ例ヘハ日本ノ古代及ヒ戰國時代ニ於テ探湯ノ制度ヲ用ヒタルカ如キ英國ニ於テ他人ヨリ危害ヲ被リタル者カ國家ノ力ヲ藉ルコトナクシテ加害者ノ家畜ヲ取去ルコトヲ許サレタルカ如キ日耳曼人種ノ法律ニ於テ原告及ヒ被告ヲ併セテ水中ニ投シタルカ如キ又

ハ神ニ供ヘタルモノヲ多數ノ嫌疑者ニ食ハシメテ曲直ヲ判定シタルカ如キ即チ是ナリ現今ニ於テモ發達シタル法律カ一箇人ニ與フル自身ノ力ヲ以テ自ラ防禦スルコトヲ認ムルモノ頗ル多シ例ヘハ正當防衛ノ如キ質抵當ノ如キ皆然リ

現今學者ノ多數ハ法律ハ國家權力ノ强制ニ依リテ維持セラルルモノナリト說ケリ惟フニ國家權力ノ强制ハ所謂表面上ノ强制ニシテ唯形式上ノ强制タルニ過キス慮罰ヲ受ケンコトヲ恐レ又ハ執達吏ニ强制サレンコトヲ恐ルルカ爲メニ法律ニ服從スル者ハ孰レノ國ニ於テモ極メテ少カルヘク之ニ反シテ多數ノ人民ハ單ニ法律ニ從ハサルヘカラストノ思考即チ內部ノ强制ニ依リ法律ノ命義心ヨリ出ツルモノアルヘク或ハ秩序ヲ重スルノ考ヨリ出ツルモノアルヘシ此等ノ思想ハ皆源ヲ利害共通ノ念ニ發スルモノナリ法律カ强制力ニ依リ維持セラルルモノナリトノ說ハ絕對ニ之ヲ否認スルコト能ハスト雖モ强制力以外ニ法律ヲ維持スルニ足ルヘキモノナシト信スルハ大ナル誤謬ナリ或國又ハ或

時代ニ於テハ强制力カ法律ノ維持ニ何等ノ效ヲ奏スルコトナクシテ强制力以外ノ要素ノミニ依リテ法律ノ維持セラルルコトアルヘシ此等ノ要素ヲ名ケテ內部ノ强制ト謂フナリ此內部ノ强制ハ各人自ラ己ヲ正シクシ又他人ヲ信用スルトノ二者ニ胚胎スルモノナリ故ニ誠實信用ハ法律ヲ維持スル根本タリ誠實信用ト謂フトキハ恰モ道德上ノ力ノミニ限ルカ如シト雖モ信用及ヒ誠實ノ根本ヲ成スモノハ物質上ノ力即チ利害共通ニ外ナラス此利害共通ヲ維持セシムルモノハ誠實ト信用トノ力ナリ要スルニ信用誠實ナル精神上ノ力ト利害共通ナル物質上ノ力トハ互ニ原因ト爲リ又結果ト爲リ相循環シテ以テ法律ヲ維持スルモノニシテ彼ノ强制力ノミヲ以テ法律カ維持セラルルモノナリト云フカ如キハ或物ノ一端ヲ見テ全體ヲ評スルカ如キ淺薄ナル議論ナリト謂ハサルヘカラス

第三章　法律ノ制定

法律ノ制定ハ國ニ依リ又ハ時代ニ依リテ必スシモ一致セサルナリ神法主義ヲ

採レハ法律ハ神ニ依リテ制定セラレタリト謂フコトヲ得ヘク主權者命令說ヲ採レハ法律ハ主權者ノ命令ニ依リテ制定セラレタリト謂フコトヲ得ヘク又民約說ヲ採レハ法律ハ人民ノ契約ニ依リテ制定セラレタリト謂フコトヲ得ヘシ然レトモ玆ニ所謂法律ノ制定トハ此ノ如キ根源ヲ指スニ非スシテ立憲君主國タル現今我國ニ於ケル法律ハ如何ニシテ制定セラルルヤヲ述ヘントスルモノナリ

第一節　狹義ノ法律ノ制定

我國ニ於ケル法律ナル文字ニ二樣ノ意義アリ一ハ憲法ニ用ヒタル法律ナル文字ニシテ他ハ一般ニ所謂法律ナル文字ナリ前者ヲ狹義ノ法律ト謂ヒ後者ヲ廣義ノ法律ト謂フ議會ノ協贊ヲ經且裁可ヲ得タルモノハ憲法上ノ法律即チ狹義ノ法律ニシテ之ニ反シテ狹義ノ法律ヲ除キタル國家意思ノ發表及ヒ狹義ノ法律ハ之ヲ併セテ廣義ノ法律ト謂フコトヲ得ヘシ故ニ勅令閣令府令警令警視廳令等ノ如キモ所謂廣義ノ法律ナリ

我國ノ立法權ハ元首ニ專屬スルコト憲法第五條ノ規定ニ依リテ明カナリ即チ「天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ」ト規定セラレタリ或外國ニ於テハ天皇ト議會トカ共同シテ法律ヲ制定スルモノナリトノ制度ヲ採ルモノアリト雖モ我國ノ憲法ニ於テハ決シテ此ノ如キコトヲ認メサルナリ故ニ立法權ハ絕對ニ天皇ニ專屬ス唯天皇カ議會ノ協贊ヲ經テ立法權ヲ行フニ過キス

今法律制定ノ順序ヲ擧クレハ次ノ如シ

第一　法律案ノ提出

法律案ノ提出トハ將ニ制定セントスル法律ノ草案ヲ協贊ヲ求ムル爲メニ議會ニ出スコトヲ謂フ何人カ法律案提出ノ權利ヲ有スルヤハ各國法律ニ依リ差異アリ例ヘハ英佛獨等ニ於テハ君主又ハ大統領ハ勿論議會ノ議員モ亦此權利ヲ有スト雖モ我國ニ於テハ議員ニ此權利ヲ與ヘス唯政府、貴族院、衆議院ノ三者ノミ法律提出ノ權利ヲ有ス(憲法第三八條參照)議案ヲ提出スルニハ之ヲ衆議院ニ先ニスルモ貴族院ニ先ニスルモ不可ナシ唯豫算案ノミハ必ス衆議院ヲ先ニセサルヘカラス議會カ提出セラレタル法律案ヲ議セントスルニハ必ス政府ヨリ

提出シタルモノヲ先ニセサルヘカラス政府ハ又一旦提出シタル議案ヲ何時タリトモ修正又ハ撤回スルコトヲ得ヘシ(議院法第五條、第二六條第二項、第三〇條參照)

第二　法律案ノ議決

法律案ノ議決トハ議會カ提出ヲ受ケタル法律案ヲ法律ト爲スヘキヤ否ヤヲ一定ノ方式ニ從ヒテ議定スルコトヲ謂フ其方式ハ議院法第二十七條ノ規定スル所ニシテ即チ左ノ如シ

法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決ス但政府ノ要求又ハ議員十人以上ノ要求ニ依リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

茲ニ所謂三讀會ナルモノカ各、如何ナル手續ヲ爲スヘキモノナルヤヲ簡單ニ述フヘシ

第一讀會　第一讀會ニ於テハ提出セラレタル法律案ノ全體ヨリ觀テ之ヲ法律トスルノ必要アリヤ否ヤヲ議定スルモノナリ政府ヨリ提出シタル議案ハ必ス委員ヲシテ審査セシメサルヘカラス苟モ政府ニシテ反對ノ要求ヲ爲スニ非サレハ此委員審査ハ常ニ必ス勵行セサルヘカラス

第二讀會　第二讀會ニ於テハ法律案ノ各條文ニ付キ詳細ニ之ヲ審議シ之ヲ修正變更、削除スルコトヲ得ヘシ

第三讀會　第三讀會ハ第二讀會ニ於テ審議シタル法律案全體ヨリ觀テ其常否ヲ決スルモノナリ但第三讀會ニ於テモ仍ホ第二讀會ニ於ケルカ如キ手續ヲ爲スコトヲ妨ケス

第三　法案ノ裁可

法案ノ裁可トハ一定ノ形式ニ從ヒ法律案ヲ法律ト爲スノ意思ヲ表示スルコトヲ謂フ(憲法第六條參照)我國ノ憲法ニ依レハ主權者ノ裁可ニ關シ全ク獨立ノ權利ヲ有ス故ニ或外國ノ制度ニ於ケルカ如ク主權者ハ議會ト共同シテ立法權ヲ行フモノニ非ス又議會ト共同シテ法律案ヲ裁可スルモノニモ非ス故ニ主權者ハ議會カ何等ノ修正ヲモ加ヘスシテ議決シタル法律案ヲモ裁可セサルコトヲ得ヘシ裁可ニ要スル一定ノ形式トハ主權者ノ署名及ヒ鈐印即チ是ナリ加之多

數ノ國ニ於テハ裁可ニ國務大臣ノ副署ヲ要ス法律及ヒ一般ノ行政ニ係ル勅令ニ付テハ各大臣悉ク之ニ副署シ各省專任ノ事務ニ付テハ主任大臣ノミ副署ス尙ホ裁可ノ年月日ヲ附スルカ如キモ一箇ノ形式ナリ此ノ如キ手續ヲ履ミテ之ヲ公布スルコトカ裁可ノ形式ナレトモ不裁可ニハ積極的ノ形式ナシ故ニ我國ニ於テハ次ノ議會ノ會期マテニ公布ナキ法律案ハ不裁可ト看ルヘキモノナリ

（議院法第三二條、明治二十九年二月勅令第一號公文式第三條參照）

法律案ハ裁可ニ因リテ法律タルノ效力ヲ生スルモノナルカ故ニ之ヲ變更シ又ハ之ヲ廢止セントスルニハ即チ法律ノ變更又ハ廢止ニ必要ナル形式ヲ充タササルヘカラス

以上ヲ以テ狹義ノ法律ノ制定ヲ說明シタリ

第二節　廣義ノ法律ノ制定

第一款　命令ノ制定

命令ノ制定ハ議會ニ關係ナクシテ全ク天皇ノ大權ニ屬スルモノナリ命令ハ之

憲法

法學士　清水澄講述

第一編　總論

第一章　國家

第一節　國家ノ意義

國家ハ一ノ權力的領土團體ニシテ其要素トシテ土地、人民及ヒ權力ヲ有スルモノナリ今之ヲ定義トシテ擧クレハ

國家トハ土地ノ上ニ基礎ヲ有シ一ノ權力ヲ以テ統一的ニ組織セラレタル人民ノ團體ヲ謂フ

尙ホ參考ノ爲メ之ニ異ナリタル國家ノ定義ヲ左ニ列擧スレハ

一　國家ハ君主ナリトスル說

二　國家トハ領土ヲ指スモノナリ

三　國家トハ人民ノ團體ヲ謂フ

四　國家トハ一ノ權力ニ依リテ土地及ヒ人民ノ支配セラルル關係ヲ謂フ

此等ノ說ハ國家ナルモノノ一部ヲ表示スレトモ其全體ヲ示スモノニ非サルナリ

第二節　國家ノ地位

統治權ノ側ヨリ觀タル國家ノ地位ニ付テハ左ノ諸說アリ

第一　國家ハ統治權ノ主體ナリトスル說

此說ヲ唱フル者ニ二種アリ一ハ君主ト國家ト同一ニシテ且共ニ統治權ノ主體ナリト唱フルモノニシテ他ハ國家ハ統治權ノ主體ナルモ他ハ君主ヲ以テ國家ノ最高機關ト認ムルモノナリ

第二　國家ハ統治權ノ客體ナリトスル說

此說ハ「ザイデル」氏ノ唱フル所ニシテ氏ノ所謂國家ナルモノハ土地及ヒ人民ヲ指スモノナリ即チ領土及ヒ臣民ヲ以テ國家ト認メ且之ヲ統治權ノ客體ト爲スモノニシテ我憲法第一條ノ「帝國」ナル文字ハ恰モ之ニ該當スルモノナリ

第三　國家トハ統治關係ヲ謂フ

右ニ揭ケタルカ如ク統治權ノ側ヨリ觀察シタル國家ノ地位ニ付キ三種ノ異ナリタル學說アリト雖モ我國憲法上皆其當ヲ得サル說ナリト信ス既ニ述ヘタルカ如ク國家トハ一ノ權力ヲ以テ組織セラレタル領土團體ナルニ由リ其團體其レ自身ハ其權力ノ結果ニシテ其主體タルモノニ非ス又要素ノ一部タル領土及ヒ臣民ヲ指スモノニ非ス又國家ハ負債ヲ負ヒ(憲法第六十二條ニ「國債」ノ文字アリ)且其歲出歲入ナルモノヲ(第六四條、第七二條)有スルモノナルニ由リ單ニ統治關係ヲ指シタルモノト考フルコトヲ得サルナリ

第三節　國家ノ要素

前ニ述ヘタル所ニ依リ國家ノ要素ハ土地、人民及ヒ權力タルコト明カナリ其所

謹啓豫テ御願申上置候
此使ヘ御渡被下度願上候敬具

行政法
原稿

十月二十一日
五時ノ
法政大學
編輯局

清水澄殿
執事

謂人民ナルモノハ國ニ依リテ多少ノ別アリト雖モ國家タリヤ否ヤニ付キ何等ノ關係ヲ有セス例ヘハ「モナコ」「リーヒテンスタイン」ノ如キ少數ノ人民ヲ有スルモノト雖モ亦以テ國家タルニ妨ナキナリ又土地ニ付テハ人民一定ノ住所ヲ定メサル時代ニ於テハ國家ノ要素タルヤ否ヤニ付キ疑ハシキモノナリシト雖モ今日ハ必ス一定ノ土地ヲ以テ國家ノ成立ニ必要ナルモノト爲セルナリ第三ノ要素タル權力ニ付テハ或ハ內外ニ對シ最高ノモノナラサルヘカラスト唱フル者アリト雖モ其權力タルヤ內外ニ對シ必スシモ最高ノモノタルコトヲ必要トセサルナリ我國ニテハ其權力最高ナリト雖モ例ヘハ獨逸帝國ヲ組織スル普漏西ノ如キ又永久中立國タル白耳義ノ如キ其權力最高ノモノニ非ス然レトモ普漏西及ヒ白耳義ノ國家タルコトハ何人モ疑ハサル所ナリ

第四節　國家ノ目的

國家ノ目的ニ關シテハ左ノ諸說アリ

第一說　國家ハ他ノ爲メニ存在スルモノニ非ス即チ自己ノ生存ノ爲メニ存スルモノナリ故ニ國家ノ要素タル人民ノ如キハ國家ノ爲メニ總テヲ犧牲ニ供セサルヘカラサルモノナリト

第二說　國家ハ人民ノ爲メニ存在スルモノナレトモ積極的ニ人民ノ幸福ヲ圖ルコトハ宗敎團體即チ敎會ノ目的トスル所タルニ由リ國家ハ人民ニ對スル危害ヲ防禦スルヲ以テ目的ト爲スニ過キス即チ單ニ國家ナルモノハ軍事、外交警察等人民ノ幸福ヲ消極的ニ圖ルノ目的ヲ有スルニ過キサルモノナリト

第三說　國家ハ人民ノ危害ヲ防禦スル消極的ノ目的ノミナラス人民ノ幸福ヲ積極的ニ增進スルノ目的ヲモ併有スルモノナリト

第四說　國家ノ發生ハ事實的ノモノニシテ或目的ヲ有シテ成立シタルモノニ非ス而シテ國家ナルモノハ何事ヲ爲サントスルモ自由ナルモノニシテ如何ナルコトヲ爲スモ妨ナキモノナルニ由リ國家ノ目的ハ無制限ナルモノナリ故ニ國家ノ目的ヲ論スルノ必要ナキモノト謂フヘシト

右四說中今日最モ行ハルルハ第三說ナリ

第五節　國家ト人格

國家ハ公法上ノ人格ヲ有スルヤ或ハ私法上ノ人格ノミヲ有スルモノナリヤ或ハ全ク人格ヲ有セサルモノナリヤニ付テハ學説一致セサル所ナリ國家ハ統治權ノ主體ナリト唱フル學者ハ國家ハ公法上ノ人格ヲ有スト唱フレトモ前ニ述ヘタルカ如ク我國ニ於テハ統治權ノ主體ハ君主ナルニ由リ國家ハ公法上ノ人格ヲ有スルモノニ非サルナリ然レトモ我制度上國家ハ財産ヲ有シ國債ヲ負ヒ其他私法上ノ權利義務ノ能力ヲ有スルコトヲ認メラルルニ由リ私法上ノ人格ヲ有スルモノト謂フヘシ而シテ私法上ノ人格ノ點ヨリ觀察シタル國家ヲ通常國庫ト稱ス

第二章　憲法

第一節　帝國憲法成立ノ歴史

歐羅巴ニ於テ成文憲法ノ成立シタルハ佛蘭西ヲ以テ始トス佛蘭西ニ於テハ千七百八十九年ノ大革命後二年ヲ隔テ即チ千七百九十一年憲法始メテ制定セラレ爾後幾度ノ變遷アリテ千八百十四年所謂立憲君主國ノ憲法ト視ルヘキ憲法制定セラレタリ此憲法ヲ模範トシテ千八百十六年ヨリ千八百二十年マテノ間ニ南獨逸ニ於テ制定セラレタル憲法頗ル多シ千八百三十一年白耳義ノ和蘭ヨリ獨立スルニ及ヒ亦主トシテ千八百十四年ノ佛國憲法ヲ模範トシ以テ其國ノ憲法ヲ制定シタリ千八百四十八年ニ佛國ノ第三革命生スルニ及ヒ普漏西モ一般ノ大勢ニ驅ラレ遂ニ憲法草案ノ制定ニ著手シ千八百五十年現行ノ憲法發布ノ運ニ達シタリ而シテ此普漏西ノ憲法ハ千八百三十一年ノ白耳義ノ憲法ヲ模範ト爲シタルモノナリ

我國ニ於テハ西暦千八百八十九年即チ明治二十二年ニ憲法ヲ發布セラレタリ此憲法ハ主トシテ普漏西憲法及ヒ白耳義憲法ヲ參照シテ制定セラレタルモノナリ今此憲法發布ニ至リタルマテノ順序ヲ略述センニ明治元年三月十四日五箇條ノ誓文發セラレタリシカ其一ニ「廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ」トアリ是レ今日立憲政體ニ至ルノ萌芽ヲ爲シタルモノナリ次テ明治元年四月立憲

制度調査ノ爲メ東京ニ議事取調局ヲ置カレシカ明治二年變更セラレテ制度寮ト爲リ依然其調査ニ從事シタリ明治七年民選議院設立ノ議起ルニ及ヒ更ニ憲法取調委員ヲ置カレ以テ各國憲法ノ取調ヲ爲サシメラレシカ其結果明治八年四月十四日ノ勅諚トシテ顯ハレ元老院及ヒ大審院ノ設置ト爲リタリ是レ我國ニテ特ニ立法權ト司法權トヲ分タントセル始ニシテ以後法律ノ名ヲ以テ發布セラルルモノハ必ス元老院ノ議決ヲ經サルヘカラスト定メ又大審院ノ設置ニ據リテ司法機關ノ行政ヨリ獨立スルコトヲ保障シタルモノナリ是レ今日立憲政體ニ至ルノ基礎ヲ作リシモノト謂フヘシ尙ホ明治九年元老院ニ命シテ憲法ノ調査ヲ爲サシメシモ明治十年ノ戰爭ニ妨ケラレタルカ爲メ憲法制定ノ運ニ至ラス僅ニ明治十一年府縣會ヲ設置シテ以テ國會開設ノ階梯ヲ作レリ然ルニ明治十三年國會開設ノ建白頻呈セラレシカ爲メ明治十四年國會開設ノ詔勅下リ歐洲各國ノ憲法取調ノ爲メ伊藤參議ヲ歐洲ニ派遣セラレタリ伊藤參議歸朝ノ後制度取調局設置セラレ而シテ該局ハ立憲制度準備ノ調査ヲ爲セシカ其調査ノ一部ノ結果ハ明治十八年十二月ノ制度改革ト爲リ内閣ナルモノ始メテ組

民法總則（自第一章至第三章）

法學博士　梅　謙次郎　講述

緒論

今日ハ民法ノ講義ヲ始メマス、私ノ此講座ニ於ケル擔任ハ、民法ノ講義ノ緒論即チ民法ノ本論ニ這入ル前ノ御話、ソレカラ民法ノ極ク初ノ部分、總則ノ中前三章ノ御話デナリマス

民法ノ著書ハ邦文ヲ以テ書イタモノハ不幸ニシテ極メテ少イノデス、御參考ニ爲ベキ宜カラウト思フ本ハ殆ド無イノデス、幸ニ今年富井君ノ「民法原論」ト云フ本ガ出マシタ、是ハ從來有リ觸レタ著書ト違ウテ十分ニ御參考ニナル本デアラウト思ヒマス、惜ムラクハ僅ニ第一卷ノ初ガ三百頁出マシタ許リデ、マダ其後ガ出

マセヌカラ民法全體ノ御參考ト爲ル譯ニハ往キマセヌガ、併シ此講座ニ屬スル部分丈ケハ丁度出テ居リマス、即チ總則編ノ前三章丈ケハ丁度出テ居ル、此本ハ畢竟六七冊ニ爲ル見込ダサウデス、此外ニハマダ實ハ無イト言ッテモ宜イ位デアリマスガ、私ノ著シタ「民法要義」及ビ「民法原理」ト云フモノガアリマス、是ハ格別御參考ニ爲ル程ノモノデハアリマセヌケレドモ、外ニ餘リマダ著書ガ無イノト、ソレカラ諸君ハ私ノ講義ヲ御聽キニ爲ッテ居ルカラ其方カラ御參考ニ爲ルコトガアラウカト思フデ是モ序ニ申上ゲテ置キマス、民法要義ハ五冊ヲ以テ完結致シテ居リマス、此方ハ逐條ノ說明ニ爲ッテ居ル、主ニ條文ノ理由及ビ解釋ノ說明デアル、ソレカラ民法原理ノ方ハ數年前ニ本校ニ於テ講義ヲ致シマシタ筆記ニ基イテソレニ修正ヲ加ヘテ出シタノデス、是モマダ漸ク一冊シカ出シマセヌ、此講義ノ御參考ニ爲ル部分丈ケハ出テ居リマス、法律行爲ノ初ノ處マデ出テ居リマス、全部デハ六七冊ニ爲ル積リデアリマス、是ハ民法要義ノ方ヨリハ幾分カ餘計御參考ニ爲ルベキ筈ト思ヒマスケレドモ、マダ出テ居ル部分ガ少イノデ民法全體ニ就テハマダ御參考ニナリマセヌ

民法ノ講義全體ヲ試ニ私ガ分ケテ見マスルト、先ヅ緒論、是ハ法律ノ全體ニ通ズル事ガ多イ、ソレカラ其次ニ第一編ヲ總則トシ、第二編ヲ財產トシ、第三編ヲ親族トシ、第四編ヲ相續トシタガ宜カラウト思フ、第二編ノ財產ハ法典デ云フト物權編ト債權編トヲ併セタモノデアル、併シ只今申シマシタ通リ今學年ニ於ケル私ノ此講座ノ擔任部分ハ、今ノ緒論トソレカラ第一編總則ノ中デ前三章丈ケデアリマスカラ、全體ノ講義ノ順序ヲ御話シテモ殆ド致方ガ無イノデ、スガ、先ヅ民法ノ初ノ講義デアルカラ、私ノ心持丈ケデ民法全體ノ編別ヲ申上ゲテモ宜カラウカト思ヒマス

是ヨリ直チニ緒論ヲ始メマス、緒論ヲ分ッテ十三章ト致シマス、第一章ハ法律ノ定義、第二章ハ法律ト道德トノ關係、第三章ハ法律ト政治トノ關係、第四章ハ法律ト經濟トノ關係、第五章ハ法律ハ學ナリヤ術ナリヤト云フ問題、第六章ハ「法律」ナル語ノ種種ノ意義、第七章ハ法律ノ類別（分類ト言ッテモ宜ウゴサイマス）、第八章ハ權利及ビ義務、第九章ハ法律ト慣習トノ關係、第十章ハ法律ノ沿革、第十一章ハ時期ニ關スル法律ノ效力、第十二章ハ目的ニ關スル法律ノ效力（此「目的」ト云フノハ

後ニ説明致シマスケレドモ普通ノ言葉ノ「目的」トハ意味ガ違ヒマス目的物ト云フヤウナ意味デ、詰リ他ノ言葉デ言ッテ見ルト客體トカ内容トカ云フ意味ニ略ボ當ルノデス、後デ説明ヲ致シマスルト分リマス、第十三章ハ民法ノ範圍、是ヨリ直チニ第一章ノ説明ヲ致シマス

第一章　法律ノ定義

私ノ定義ハ「法律トハ人類ガ社會ノ一分子トシテ由ラザルベカラザル道ヲ謂フ」ト云フノデアル、此定義ハ近來我國ニ於テ一般ニ行ハレテ居ル定義トハマルデ違フノデス、我國ニ於テハ近來ハ非性法説ガ流行ッテ居ル、然ルニ私ノ定義ハ性法ノ存在ヲ認メテ居ル者デアル、ソレデ定義ガマルデ違フノデス、此性法ト云フノハ或ハ自然法トモ言ヒマス、或ハ又理想法トモ謂フ、之ニ付テハ色色沿革モアルコトデアリマスケレドモ、ソレハ省イテ申シマスマイガ、兎ニ角廣イ意味ニ於テハ「性法」若クハ「自然法」ト云フノモ「理想法」ト云フノモ同ジコトデアルノデス、即チ人ノ天性或ハ社會ノ自然ノ道理ト云フモノニ基イテ一ノ理想ヲ定メル、法律ト云フモノハ斯クアルベキ筈ノモノト、斯ウ理想ヲ一ツ極メルノデス、其法律ノ理想、ソレガ「性法」トモ謂ハレルシ「自然法」トモ謂ハレル、又「理想法」トモ謂ハレル、學者ニ依ッテ或ハ「性法」ト曰ヒ或ハ「理想法」ト曰フ、歐羅巴ノソレニ當ル言葉ハ則チ羅甸語デ「ジュス、ナトゥレ」(jus naturae)或ハ「ジュス、ナトゥラレ」(jus naturale)是ハ羅馬ノ法律書カラ使ッテアル語デス、ソレカラ佛蘭西デハ「ドロワー、ナチユレル」(droit naturel)獨逸デハ「ナトゥルレヒト」(Naturrecht)此言葉ガ言ハバ羅馬カラ今日ニ至ルマデ用ヒラレテ居ル言葉デアル、是ノ傍ニ「理想法」ト譯スベキ字ガ佛蘭西デ「ドロワー、イデヤル」(droit idéal)或ハ「ラションネル」(rationnel)獨逸デモ「イデヤルレヒト」(Idealrecht)或ハ「フェルヌンフトレヒト」(Vernunftrecht)併シ狹イ意味ニ於テハ違フ、即チ人ニ依ッテハ「性法」ノ言葉ヲ避ケテ「理想法」ト云フ字ヲ使フノデス、其狹イ意味ノ理想法カラ言フト、ソレニ相對シテ云フ所ノ「性法」ト云フノハ、人ノ性ニ基キ自ラ定マリタル萬古不易ノ法律デアル、是ガ從來ノ性法ノ普通ノ定義デアルノデス、所ガ之ニ對シテ「理想法」ト云フ言葉ヲ擇ブ人ハ三ツノ理由デ性法ト云フ言葉ヲ避ケテ性法ト云フヨリハ理想法ト云フ方ガ宜イト云フ、其第一ハ獨逸ノ名高イ「カント」「フヰヒテ」抔ノ

說ナンデス、其說ニ據ルト法律ハ人ノ性ニ基クト云フケレドモサウ云フモノデハナイ、人ノ性デナクシテ實際ノ道理ダ、實地ノ道理ニ基クモノデアルト云フヤウナ所カラ性法ト云フ言葉ハ惡イ、寧ロ理想法ト言ッタ方ガ宜イト斯ウ云フコトヲ言フノデス、第二ノ種類ノモノハ是ハ佛蘭西ノ「フイエー」抔ト云フ人ガ主張致シマシタ所デ、ソレハ所謂「性法」ハ萬古不易ノ法律デアルト云フノデ古モ其通リデ宜カッタシ今日モ其通リデ宜シイ、又將來モソレデ宜イノデアル、言葉ヲ換ヘテ言フト所謂「性法」ナルモノハ今日直チニソレヲ何處ノ社會ニ持ッテ行ッテ適用シ[illegible]テモ差支ナイモノデアル、否適用セネバナラヌ筈ノモノデアルト斯ウ云フ風ニ言フ、ソレガ誤ッテ居ル現在直チニソレヲ行フト云フコトハ出來ヌ、唯將來ノ理想ニ止マル、ドウゾ此ノ如クアリタイト云フ理想、我我ハ其理想ニ成ルベク近ヅイテ往クヤウニ努メンケレバナラヌ、併シ今直グソレヲ行フト云フコトハ無理デアル、ソレダカラ「性法」ト云フヨリハ「理想法」ト言ッタ法ガ宜イト、斯ウ云フノデス、ソレデ「ドロワー、イデヤル」ト斯ウ言ッタ方ガ宜イト云フノデス、ソレカラ第三ノ說ハ是ハ私抔ノ信ズル所ノ說デアルガ、私抔ノ信ズル所デハ性法ノアルト云フコトハ

認メルケレドモソレガ萬古不易デアルト云フコトハ少シ語弊ガアル、大原則ハ萬古不易デアルケレドモ其適用ニ至ッテハ時ト處トニ依ッテ異ナルノデアル、法律ト云フモノハ社會ヲ支配スベキモノデアル、今私ノ申シタ定義ニモ人類ガ社會ノ一分子トシテ由ラザルベカラザル道デアルト云フカラ社會ト云フモノヲ基礎トシテ居ル、ソレデアルカラ社會ノ有樣ニ依ッテ適用スベキ法律ガ是非變ラナケレバナラヌ、ソレガ即チ道理デアル、ソレガ即チ人ノ性ニ適ッタモノデアリ自然ノ法ニ適ッタモノデアル、ダカラ社會ノ開化ノ程度ガ若シ之ヲ數デ量ルコトガ出來ルナラバ、五ツノ度ニ達シテ居ルナラバ其五ツノ度ニ適スル法律デナケレバナラヌ、十ニ達シテ居ルナラバ十ノ程度ノ法律デナケレバナラヌ、開化ノ度ノ五ツノモノニ進ンダ十ノ程度ノ法律ヲ適用シヤウト思ウテモ適用スルコトハ出來ナイ、强ヒテ適用スレバ害ノミ有ッテ益ハ無イ、サウ云フコトハ理想デハナイ、道理デモ何デモナイ、又社會ノ程度ガ十ニ達シテ居ルノニ五ツノ程度ノ幼稚ナルモノデハ到底社會ヲ支配スルコトハ出來ナイ、故ニ社會ノ程度ニ應ジタル法律ガ即チ理想ニ適シテ居ルノデス、丁度五ツ丈ケノ程度ノ社會ニハ五ツ丈ケ

ノ程度ノ法律ガ理想デアル、十ノ程度ノ社會ニハ十ノ程度ノ法律ガ理想デアル、ソレハ則チ理想法デアル、成程法律ノ原則ノ中ニハ萬古不易ノモノハ固ヨリアルノデス、ダカラ私ハ性法論者ノ言フコトガ全然誤ッテ居ルトハ言ハヌ、萬古不易ノモノノアルコトハ後ニ申シマス、ケレドモソレハ唯原則ノミデアッテ其適用ニ至ッテハ社會ノ進度ニ應ジナケレバナラヌ、隨テ國ニ依リ時世ニ依ッテ法律ハ變ッテ往カナケレバナラヌト云フノデアル、ソレダカラソレハ「理想法」ト云フノガ當ルノデ「性法」ト云フ古來ノ名稱ヲ用フルト云フト動モスレバ誤解ヲ招ク、現ニ近頃モ或學會デ性法說ヲ唱ヘマシタガ其時ニ反對ノ人ガソレデハ「性法」ト云フ名ヲ用フルノガ惡イト斯ウ云フ批難ヲサレタノデス、私ハ惡イトハ思ハヌガ此ノ如ク誤解ガアル位ナラ「理想法」ト云フ文字ヲ使ッタ方ガ宜シイト斯ウ思フノデス、デ兎ニ角名ハ何レノ名ヲ用ヒテモ後ニ說明スル制定法、即チ主權者ガ直接又ハ間接ニ定メタモノノ外ニソレニ關係ナクシテ自然ニ法律ノ原則ト云フモノガアルト云フコトヲ認メテ居ル點カラ申スト「性法」ト云ハウガ「自然法」ト云ハウガ將タ「理想法」ト云ハウガ同ジコトデアル、此等ノ學說ヲ名ケマシテ理想派ト謂フ、

是ニ反對スル學派ガ歷史派ト云フノデス、此歷史派ト云フノハ比較的新シイ學說デ、今日デハ獨逸デ是ガ最モ勢力ガアルノデス、而シテ我日本ニ於テハ獨逸ノ學派ガ一番勢力ガアリマスカラ、日本デハ此歷史派ノ人ガ多イノデス、尤モ歷史派ノ人ガ悉ク獨逸學者デハナイ、是ハ今獨逸デ一番盛ニ行ハレテ居リマスケレドモ、寧ロ古イコトヲ云フト英吉利ノ方ガ古イノデス、元祖ト云フ名ヲ付ケルノハ如何カ知リマセヌケレドモ、寧ロ元祖ハ英吉利ニ在ルト言ッテ宜シイ位ニ思フ、唯獨逸デハ「ヘーゲル」以來有名ナ學者ガ澤山出テ此說ヲ主張シタモノデスカラソレデ羅馬ニ於テ最モ勢力ガアル、「ヘーゲル」ノハ今日ノ歷史派ノ言フ說トハ違フヤウデアリマスケレドモ、併シ獨逸ニ於ケル元祖ハ確ニ「ヘーゲル」デアル、此歷史派ノ言フ所ハドウデアルカト云フト、法律ト云フモノハ歷史ノ產物デアル、歷史ガ自ラ生ミ出スモノデアル、一定ノ理想ヲ頭ニ描イテサウシテ「アブストラクト」即チ抽象的法律ヲ作ラウト思ウテモサウ云フコトハ出來ルモノデナイ、法律ト云フモノハ決シテサウ云フ風ニ觀察スルコトハ出來ヌモノデアル、隨テ眞ニ「法律」ト名クベキモノハ制定法即チ主權者ガ直接又ハ間接ニ定メタモノデア

ル、ソレノ外ニ「法律」ト稱スベキモノハナイ、各人ノ腦髓デ斯ウ云フモノガ法律デアルト云ッテモソレハ法律デモ何デモナイト、斯ウ云フノデアル、デ此學派ハ一切性法トカ理想法トカ云フモノハ認メヌノデアリマス(「ヘーゲル」ハ仍ホ理想ヲ認ムルノデアルガ「サヴ#ニー」以下ノ歷史派學者ハ一切之ヲ認メヌノデアル)ケレドモ私ハ此學派ニ服スルコトハ出來ヌ、少クモ此學說ヲ採ラナイ理由ガ三ツアル『先ヅ第一ニハ如何ニ歷史ニ依ッテ法律ガ變ッテ往クトハ言ヒナガラ萬古不易ノ大原則ト云フモノガ自ラアルノデス、如何ナル古キ時代ニ於テモ今日ニ於テモ又東西孰レノ國ニ於テモ變ラナイモノガアル、例ヘバ人ヲ殺スト云フコトハ原則トシテ何處ノ法律デモ禁ジテ居ル、ドンナ野蠻ナ國ノ法律デモ人ハ殺シテ差支ナイモノデアルト云フ法律ハ無イ、ソレハ或場合ニハ殺シテモ宜イト云フコトニ爲ッテ居リマスケレドモ、原則トシテ殺シテ宜イト云フコトハ無イ、是ハ其筈デス、人類ガ社會ヲ組ンデ生活ヲスルノハ如何ナル目的ヲ持ッテ居ルデアラウカ、皆生生ノ道ヲ全ウスル、先ヅ以テ自己ノ存在ト云フコトヲバ保ッテ往カウ、尙ホ進ンデ自己ノ存在ヲ延長シ、サウシテ子孫ヲ貽シテ即チ子孫ヲシテ益繁昌セシメル、

社會ガ進メバ種種無形ナ欲望モ出テ來マスルケレドモ、如何ナル幼稚ナ社會デモ生存ノ欲望丈ケハ天然ニ存シテ居ル、又ソレガ天道デアル、說明ハ如何ニ說明スルカソレハ學說ニ依ッテ違ヒマスケレドモ事實ハ確ニ之ヲ認メテ居ルニ違ヒナイ、然ラバ人ヲ殺スト云フコトハ丁度ソレニ正反對ノ事柄デアルカラドウシテモ是ハ禁ゼナケレバナラヌ筈ナンデス、又ソレヲ禁ゼナカッタナラバ社會ノ維持ト云フモノハ出來ナイ、互ニ相殺シテ差支ナイモノデアルトナレバ段段社會ノ分子ガ減ッテ來テ到頭强イ者ガ一人ニ爲ッテ仕舞フカモ知レナイ、ソレデハ社會ノ維持ガ出來ヌカラドウシテモ人ヲ殺シテハナラヌト云フ原則ハドンナ幼稚ナ社會ニデモ必ズ存シテ居ル、況ヤ文明ノ社會ニ於テハ尙更存シテ居ル、ソレカラ所有權ト云フ觀念デスナ、是ハ法理學者ノ間ニ非常ニ議論ノアル問題デスケレドモ、私ノ思フニハ全ク所有權ノ觀念ノ無イ社會ト云フモノハナカラウト思フ、成程土地ノ所有權抔ニ付テハ其發達ガ大變ニ手間ガ要ル、今日文明國ト稱シテ居ル國ノ中ニモマダ土地ノ所有權ニ付テハ最後ノ進化ヲシナイ國ガアルノデス、我日本ノ領土內デモ臺灣ノ如キハ土地ノ所有權ニ付テ最後ノ進化ヲシ

テ居ラヌ併シ所有權ト云フ名ハ吾吾ガ勝手ニ付ケタ名デ、其權利ノ範圍トカ性質トカ云フモノモ吾吾ガ勝手ニ定メタモノデアル、兎ニ角或物ハ或人ニ屬シテ居ルト云フ觀念丈ケハ土地ニ付テモ幼稚ナ時代カラ存シテ居ルノデス、能ク法理學者ハ申シマス、土地所有權ノ進化ハ初ハ一國ノ共有、ソレカラ一種族ノ共有、一家族ノ共有、ソレカラ終ニ箇人ノ專有即チ純然タル所有權ト云フモノニ移ッテ行クト斯ウ云フ風ニ法理學者ハ說ク、何時モサウ云フ風ニ規則立ッテ進化ハシマセヌガ、先ヅ大體サウ云フヤウナ順序デ進化シテ行クコトハ各國ノ歷史ガ說明シテ居ル、日本モサウデアル、歐羅巴モサウデアル、即チ歷史ノ根本ノ全ク異ナッタ國柄ニ於テモ同ジ進化ノ道ヲ通ッテ居ル、ケレドモ共有ト云フ時カラシテ所有權ノ觀念ハアリ又共有ト云フコトサヘモ判然ト極ッテ居ラヌ時代デモソレデモ少クモ占有ト云フコトハアル、現在甲ノ占領シテ居ル土地ヲ乙ガ勝手次第ニ耕シテモ宜イ侵シテモ宜イト云フ法律ハ何處ニモアリハシナイ、サウ云フ事ヲスルト直チニ喧嘩ニ爲ル、極ク幼稚ナ時代ニ於テハサウ云フ時ニハ私鬪ヲシテモ宜イモノダト爲ッテ居ル、併シ土地ノ所有權ニ付テハ進化ガ鈍イカラ、尙ホ議論ノ餘地ガ存スルデアラウト思ヒマスガ、動產ノ所有權ニ至ッテハ殆ド議論ノ餘地ハナカラウト思ヒマス、ドンナ野蠻ナ時デモ甲ガ骨ヲ折ッテ山カラ野猪ヲ一疋捕ヘテ來タ、ソレヲ乙ガ故ナク奪取ッテ食ベテ仕舞ッテ宜シイト云フヤウナ法律ハ何處ニモアリハシナイ、是レ既ニ少クモ動產ニ付テハ所有權ト云フモノヲ認メテ居ルノデアル、而シテ幼稚ナル法律ニ於テハ理論ガ發達シテ居マセヌカラ、言葉其他言葉ノ出テ來ル根本ノ思想ト云フモノガ今日ノ學理カラ見ルト極メテ不規則デアル、ソレダカラ所有權ヲ認メルト云フ代リニ多クハ人ノ物ヲ奪フ勿レト云フ、人ノ物ヲ奪フ勿レト云フコトハ即チ所有權ヲ認メルト云フコトデアル、或ハ人ヲ殺ス勿レト云フノモマダ幼稚ナ言ヒ方デ人ノ生命權ヲ認メルト云フ方ガ正確デアルカモ知レヌガ、人ノ生命權ヲ認メルト云フコトヲ今日デモ分リ善ク人ヲ殺ス勿レト云フノデス、今日デハ所有權ノ觀念ガ非常ニ發達シテ居ルカラ、人ノ物ヲ奪フ勿レト云フノハ如何ニモ一足飛ナ言ヒ方デ、其前ニ人ノ所有權ヲ認メルト、斯ウ云フコトヲ言ハナケレバナラヌヤウデアル、併シ幼稚ナ時代ニハ人ノ物ヲ奪フ勿レト云フノガ丁度所有權ヲ認メナケレバナラヌト云フコトニ

歸著スルノデス、ソレカラ又借リタ物ハ返サナケレバナラス、斯ウ云フコトヲ能ク言フノデスナ、是ハドンナ幼稚ナ社會デモ言フノデス、甲ガ骨ヲ折ッテ山カラ捕ヘテ來タ野猪ヲ今日ハ他ニ食物ガアルカラ食ハヌデモ宜イト云ッテ蓄ヘテ置ク、隣家ノ乙ハ丁度食物ガ無クッテ困ッテ居ル、ソコデ甲ニ頼ンデドウゾ其野猪ヲ自分ニ貸シテ呉レ、明日ハ自分ガ山ニ行ッテ捕ッテ來テ返スト云フノデソレヲ借リテ食ベル、此場合ニドンナ幼稚ナ國ノ法律デモ此約ヲ違ヘテモ宜シイ、翌日ニ爲ッテ返サナクテモ宜シイト云フ法律ハアリハシナイ、必ズソレハ返サナケレバナラヌ、種種ノ契約ノ法律其他ノ債權法ト云フモノハ皆ソレカラ出テ來ル、借リタ物ハ返サナケレバナラヌト云フ觀念カラ出テ來ル、皆同ジコトデス、ザウスルトデス法律ノ大原則ト云フモノハ萬古不易ノモノデアルト言ッテ差支ナイ、其類ノ事ハ枚擧ニ遑アラズ、唯適用ガ違フ、例ヘバ人ヲ殺ス勿レト云フ原則、ソレハ萬古不易デアッテモ原則ニ例外ガアル、今日デハ先ヅ或重キ犯罪ヲ行ウタ者ハ國家ガ之ヲ殺シテモ宜イト云フヤウナ例外ガアル、モット野蠻ナ話ハ戰爭ノ場合ニハ人ヲ殺シテモ宜イト、斯ウ云フ野蠻ナ法律ガ今日デモ尙ホ存シテ居ル、ソレガ社會

ガ幼稚ナルニ從ッテ例外ガ多イノデス、臺灣ノ生蕃抔ハ祭ノ時ニ人ヲ殺シテ所謂「生贄」ニスル、其土地ノ慣習法デハ故ナク殺スノハ無論不法デアルケレドモ此ノ如キ正當ナル理由ノアル場合ニハ殺シテモ宜シイト爲ッテ居ル、ソンナ事ハ進化シタ社會ニハナイ、ソレカラ死刑デモ非常ニ減ッテ行ク、遂ニハ無クナルカモ知レヌ、或ハ同ジ殺スト云ッテモ殺ス方法ガ違フ、昔ハ慘殺ヲシタ、今カラ三十年計リ前マデハ磔、火炙ト云フモノガ法律ニ載イテアッタ、斬罪ハ私共デサヘモ見タ、維新後暫クノ間盛ニ行ハレタモノデアル、サウシテ梟首、首ヲ晒シタ、ソレハ維新ノ初マデハ盛ニ行ッタモノデアル、其外幼稚ナル時代ニハ私鬪ト云フモノガ許シテアル、マー果合ノヤウナモノデス、西洋ノ果合ハ文明ノ花抔ト云ッタ人ガアッタヤウデスガ是ハ怪シカラン話デ、アレハ野蠻ノ遺習デアル、ソレハ疑ハナイ、昔法律ガ不備デ國家ガ各人ノ權利ヲ十分ニ保護シテヤルコトノ出來ヌ時ニ據ナク自衞ノ法トシテ果合ヲ行ッタモノデ、今日ノ國際法ガサウデス、國際法ノ制裁ト云フモノハ果合、ソレデスカラ今日ハ借リテ返サヌト云ッテモ外ニソレヨリ腕力ノ強イ國ガナイト見通シテ仕鮮フ國際法ニハ借リタ物ハ返サンケレバナラヌト言ッテ

アルケレドモ制裁ヲ加ヘルト云フト果合果合ヲスルニハ此方ガ強クナイト負ケル、權利ガアッテモ負ケテハ損デスカラ容易ニ人ガ手ヲ出サヌ、幼稚ナ時代ハ一國内モ其通デアッタ、其結果ハ私鬪ニ依ッテ人ヲ殺スト云フコトヲ許シタ、其類ノ事ハ枚擧ニ遑アラヌノデ、詰リ適用ガ時世ニ依ッテ大變ニ違フ、所有權ニ付テハ先刻申シタヤウナ譯デ、土地所有權ノ沿革ガ、ドノ位社會ノ進度ニ應ジテ所有權ノ有樣ガ異ナラナケレバナラヌカト云フコトヲ證明シテ居ル、殊ニ債權法、債權債務ノ關係ヲ定ムル法律ノ如キハ是ハ時世ニ依ッテ非常ナ進化ヲシテ居ルノデス、極ク近イ例ヲ申スト日本ノ維新前ノ債權法ト云フモノヲ歐羅巴ノ文明國ニ於テ普通行ハレテ居ル所ノ債權法ト較ベテ見ルト云フト實ニ天地ノ違ヒ是ハ社會ノ進度ニ應ジテ變ラナケレバナラヌモノデアルカラ斯ク違フノデス、其所ガ私共ノ主張スル所ノ理想法トソレカラ「グロシユース」以來所謂「性法學者」ガ普通唱ヘル所ト違フノデス、併シ大原則ハ萬古不易デアルト云フコト丈ケハ如何ナル學派デアッテモ性法論者ハ皆之ヲ言フ、其點ガ歴史派ト違フ、而シテ此點ハ確ニ性法學派ノ言フ所ガ事實デアルト思フ

ソレカラ第二ニハ何カ一ツ茲ニ「理想」ト云フモノガナカッタラバ物ノ改良、進歩ト云フコトハ無イ筈デス、改良、――良ト云フケレドモドウ云フノガ良デアル、進歩、――ドウ云フノガ進デアルカ、良否進退ト云フノハ何ニ依ッテ之ヲ云フ、必ズ一定ノ理想ガアッテ其理想ノ方ニ近寄ルノガ改良デアリ進歩デアルダラウ、是ハ何事ニ付テモサウデアルガ、法律ニ於テモ亦然リ、然ルニ彼ノ歴史派ナル者ノ言フ如ク、法律ニ理想抔ハナイ、唯歴史上ノ必要カラ自然ト生ジテ來ルモノデアルト云フナラバ、法律ノ改良、法律ノ進歩ト云フコトハ言ハレナイ、サウ云フ事ハ無イト言ハナケレバナラヌ、改良モ進歩モナイ唯自ラ變ッテ往クノデアルト斯ウ言ハナケレバナラヌ、ケレドモ眞逆サウ云フコトハ言ハレマイ、希臘日耳曼ノ古イ時代ニ行ハレテ居ッテ今日普通人ガ「野蠻法」ト云フ法律ガ段段改良セラレテ今日ノ文明ノ法律ト爲ッタノデス、段段進歩シテ今日ノ域ニ至ッタノデアル、其事ハ歴史派ノ學者ト雖モ皆認メル、ドウ云フノガ進ンダノデアルカ、ドウ云フノガ改良デアルカト云フコトハ事實ニ於テ認メテ居ルト思ヒマス、故ニ言ハズ語ラズノ間ニ理想ト云フモノハ矢張リ持ッテ居ルニ違ヒナイ、歴史派ノ學者デモイヤ東洋ノ法律ハ

マダ進マヌ、南洋ノ法律ハ極メテ幼稚デアルト云フコトヲ言フノデス、ソレハ一定ノ理想ガアッテ其理想ノ方ニ近ヅクノガ進歩シタノデアル、成ルベク近寄ルヤウニスルノガ改良デアルト云フコトハ一般ニ認メテ居ルト言ハナケレバナラヌ、故ニ歴史ガ實際人類ノ進化ヲ證明シテ居ルノデアル、其進化ノ有樣ハ歴史ニ依ッテ見ナケレバ知ラレナイ、過去ノ事ハ歴史ニ依ッテノミ之ヲ知ルコトガ出來ル、是ニ依ッテ將來ヲ推セバ人類ノ進歩ノ極致ト云フモノハ是レデアルト云フコトガ分ル、ソレガ即チ理想デアル、ソレハ理想ノ最モ大ナルモノデ事事物物ニ理想ガアル、法律ニ付テ言ッテ見テモ今日ハ今日丈ケノ理想ガアル、即チ日本ナラ日本ノ今日ノ此社會ニ於テハドウ云フ法律ガ一番良イ法律デアルカ、若シ理想通リニ法律ヲ作ルコトガ出來得タラドウシタラ宜カラウカト云フノガ是ガ矢張リ理想學者ノ言フ所ノ理想法デアル、故ニ吾吾ノ目カラ見ルト「最後ノ理想」ト云フモノト「現在ノ理想」ト云フモノト二ツアル、「最後ノ理想」ト云フ甲ノ言フ所ト乙ノ言フ所ト異ナルナラバソレハ意見ノ違フノデドッチカ誤ッテ居ルカ或ハ兩方トモ誤ッテ居ルノデアル、併シ抽象的ニ言ッテ見ルト必ズ一ツノ理想ガ天然ニ在ル、人類ニ自然ニ存シテ居ル、吾吾ハ申合ハサズ、又殆ド不知不識ニ其理想ノ方ニ近付イテ行ッテ居ルノデス、國ニ依ッテハ理想カラ遠ザカッテ行ク國ガアルノデスガサウ云フ國ハ亡ビテ仕舞フ、ソレ故ニ段段國人ノ幸福ガ增シテ行キサウシテ國ノ勢力、マー今日デハ國ノ勢力ト言ハナケレバナラヌ、行ク行クハサウ云フ事ハ無クナルベキダガ今日ハ國ノ勢力ガ段段張ラレテ往クノハ理想ノ方ニ近付イテ行クノデアル、俗ナ言葉デ言ヘバ最モアノ國ガ開ケテ居ルト斯ウ云ッタナラバ、ソレハ理想ノ方ニ近寄ッテ居ル國デアルト言ハナケレバナラヌ、最モ進歩シタル法律ト云フノハ取リモ直サズ最後ノ理想ニ最モ近寄ッテ居ル所ノ法律デアルト、斯ウ言ハナケレバナラヌ、併シ今日ハ今日丈ケノ理想ガアル、此社會ノ法律ハドウアルベキカト云フソレニモ矢張リ理想ガアルト、斯樣ニ私ハ思フノデス

第三ニハ此事ガ實際最モ必要カモ知レヌ、歴史派ニ據ルト云フト制定法ノ外ニ法律ナシト斯ウ云フノデス、主權者ガ直接、間接ニ定メタモノノ外ニハ法律ハ無イ、サウスルト制定法ニハ足ラヌ事ガ毎度アル、主權者ガ定メルト云ッテモ不完全

ナ人類ガ矢張リ極メルノデスカラ氣ノ付カヌコトガ澤山アル、法律ニ惡イ規定ノアルノハ珍シクナイガソレハ仕方ガナイトシテモ、マルデ氣ノ付カナイ事ガアル、氣ノ付カナイ事ガ事實ニ於テ現ハレテ來タラドウスル、數年前マデハX光線ナドト云フモノハナカッタ、人ガ知ラナカッタ、ダカラ法律ハサウ云フモノヲ見テ居ラヌ、若シ是カラ何カ法律問題ガ起ッタラドウ決スルノデアルカ、X光線カラ法律問題ガ起ッタト云フコトハ聞カナイ、何處カニ起ッテ居ルカ知リマセヌガマダ聞カヌ、ケレドモ自動車ナドニ付テハソロソロ問題ガ起ッテ居ル、能ク人ガ近頃馬ノ附カナイ馬車ガ流行ルト斯ウ云フ、馬ノ附カナイ馬車、――ソレハ馬車デハナイ、其自動車ニハ馬車ノ規定ガ適用サレルカドウデアルカ、「馬車」ト言ヘバ馬ガアッテコソ馬車ダケレドモ馬ガナケレバ馬車デハナイ、ソレハドウスル、過去ノ事ヲ以テ將來ヲ推スト類似ノ問題ハ澤山起リサウニ思ハレル、例ヘバ電話デスナ、日本デモ今日ハ電話ト云フモノガ非常ニ盛ニ行ハレテ便利デアリマスガ、是ハ何年ニナルカ數ヘテ見マセヌケレドモ至ッテ新シイコトデス、西洋デモ新シイコトデス、ソレダカラ大概ノ國ノ法律ニ電話ト云フモノハ見テ居ラヌ、之ニ付テ問題ガ起ッタラドウスル、其他電氣作用ニ付テ色色ナ適用ガアルノデス、或ハ電氣ヲ盜ム者ガアル、近頃事實上ノ大問題ト爲ッタ電氣泥棒、アレハ大審院デハ遂ニ竊盜ヲ以テ論ジタ、サウ云フモノガ出テ來タラドウスル、電燈モ昔ハナカッタ、ソレ所デハナイ佛蘭西ノ法典ト云フモノハ百年前ニ出來タ、其當時ニハマダ生命保險ト云フモノガ實際ナカッタ、ソレデスカラ生命保險ハ種種雜多ノ法律關係ヲ生ズル事柄デスガ法律ニマルデ見テナイ、ソレカラ汽船汽車抔ト云フモノハ其時ニハナイ、サウ云フ物ハマルデ見テナイ、況ヤ電氣ノ働デアル所ノ電信デアレ、電燈デアレ、電話デアレ、サウ云フモノハ無論見テナイ、既往ニ遡ッテ見ルト佛蘭西ニサウ云フコトガアルカラ將來ニ於テ各國ニ皆サウ云フ事ノアルノヲ豫期セネバナラヌ、サウ云フ時ニハドウナル、佛蘭西ガ百年前カラ今日マデ法律ヲ改メナイデ來テ居ルノハ餘リニ呑氣デアルカモ知レマセヌケレドモ、併シ實際ソレデ差支ナク行ッテ居ル、ドウスルノデアルカ、ソレハ佛蘭西デハ性法ヲ認メテ居ルカラマルッ切リ制定法ニ於テ規定ノ無イ事ガ出テ來テモ性法デ以テ問題ヲ解イテ行ケル、ソレダカラ實際差支ナイ、若シ制定法ノミデ性法ハ無イモノデアルト云フコトニ

爲ッタラバ法律ノ改マルマデハ適用スベキ法則ト云フモノハ無イト言ハナケレバナラヌ、所ガ若シ問題ガ起ッテ爭ガ裁判所ニ出テ來タラバドウスル、何處ノ國ノ裁判所デモ苟モ文明國ニ於テハ爭ガ事實ニ於テ生ジソレガ法廷ノ問題ト爲ッタ以上ハ之ヲ決シナイト云フコトハ出來ヌ、成程刑法ナドニ付テハ別ニ明文ナキハ罰セヌ、ソレダカラ新シイ犯罪ガ出テ來ルト別ニ明文ガ無イカラ無罪ト、斯ウナル、ソレダカラ電氣ノ犯罪ナドニ付テハ大審院ノ判決例ハ兎ニ角、別ニ明文ナキガ故ニ無罪ト云フ說ガ立ツ、ケレドモ民法上ノ問題デハサウハ行キマセヌ、ドウチカニ權利ガアル、義務ガアルト云フコトヲ認メナケレバナラヌ、權利ガアルカ無イカ分ラヌカラ裁判セヌト云フコトハドウシテモ言ハレマセヌ、ソレハ各國皆許シテ居ラナイ、歷史派ノ學者ト雖モソレデ宜シイトハ決シテ言ハヌ、ソレダカラ歷史派ノ最モ豚扈シテ居ル獨逸デモソレハ決シテ許サナイ、爭ガ裁判所ニ出テ來タナラバソレハ是非決シナケレバナラヌ、甲ガ權利アリトシテ訴ヘタ時ニ此問題ニ付テハ成文ガ無イカラシテ裁判シナイトカ、或ハソレダカラ原告ノ訴ヲ取上ゲヌト斯ウ云フコトハ言ハレヌ、ドウ云フ譯デ其權利ガ無イト云フコトヲ明言シナケレバナラヌ、又訴ヲ採用スルニハ斯ウ云フ譯デ權利ガアルト云フコトヲ言ハナケレバナラヌ、何ニ依ッテソレヲヤルカ、ドウシテモ性法ヲ認メナケレバ實際ノ棚キガ付カヌ筈デアル、成程此點ニハ歷史派ノ學者ガ餘程苦心ヲ致シマシテ或ハサウ云フ場合ニハ國法ノ大原則ニ依ッテ決シテ宜シイト云フヤウナコトヲ言フノデス是ガ即チ暗ニ性法ヲ認メテ居ルト云ッテモ宜イノデ、生命保險ト云フモノヲ立法者ガマルデ知ラヌ、ソレニ付テハ何等ノ規定モ設ケテ置カヌ、然ルニ生命保險ニ當嵌マルベキ大原則ガ存シテ居ルト云フコトハ性法ヲ措イテドウシテ言ヘルカ、成程ドウ云フモノガ性法デアルカト云フコトヲ究メル材料ハ現ニ行ハレテ居ル成文法ノ中デ最モ道理ニ適ッタト思フモノガ即チ性法デアルト云フコトハ言ヘル、ソレト同ジ道理ニ依ッテ新シイ問題ヲ判斷シテ行クト云フコトハソレハ差支ナイ、ソレハ則チ私共ノ謂フ所ノ性法デアルノデス、追追御話ヲ致シマスルケレドモ、文明國デハ大抵ノ問題ハ既ニ成文法デ定マッテ居ルノデス、成文法デ定マッテ居ラナケレバ慣習法デ定マッテ居ル、兎ニ角制定法デ定マッテ居ルノデス、ソレデスカラ今日デハ性法ニ依ッテ決シナケレバナラヌト

云フヤウナ問題ト云フモノハ滅多ニ起ラヌ、故ニ詰リ制定法ノ規定ト云フモノハ多クハ性法ニ適ッテ居ル、理想法ニ適ッテ居ル、ダカラ我ガ理想法ハ此處デアルト言ッテ矢張リ制定法ト同一ノ原則ヲ採用シテモソレハ差支ナイ、ケレドモソレハ制定法デハナイ矢張リ性法ト云フカ理想法ト云フカ兎ニ角制定法以外ノモノデス

之ヲ要スルニ歴史派ハ近來中中勢力ガアル、近頃佛蘭西ナドモ少シハ蠶食シテ居ルノデス、日本ナドハ殆ド全部是ニ打破ラレテ居ル、近頃幸ニ大分若イ人ニ又吾吾ト同論ノ人ガ出テ來マシタ、ケレドモ、マダ微微タルモノデアル、ソレハ「ヘーゲル」ト云フ大學者ガ出テ其學說ヲ巧ニ主張シタ、ソレデ勢力ガアルノハ無理ナラヌト思フ、不幸ニシテ理想派ノ方ニハソレ程ノ大學者ガ餘リ出ナイ、併シ兎ニ角斯クマデニ勢力ヲ占メル學派デスカラ據ハアルニ違ヒナイ、總テノ學問ノ研究、就中法律ノ如キ社會ノ學問ハ歴史上ノ事實ニ基イテ研究シナケレバ正確ナルコトヲ得ナイ、昔ノ多數ノ性法學者見タヤウニ信仰ヲ土臺トシテサウシテ神樣ガ斯ウ云フ事ヲ言ッタトカ、耶蘇ガ斯ウ云フ事ヲ言ッタトカソレヲ土臺トシテサ

民法物權（自第一章至第六章）

法學士　塚田達二郎　講述

第一章　汎論

第一節　物權ノ定義

普通ノ學說ニ依レハ物權トハ直接ニ物ノ上ニ行ハレ且總テノ人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ナリト云フニ在リ此見解ハ債權ハ他人ノ行爲ノ媒介ニ依リ始メテ一定ノ物ノ上ニ權利ヲ行フコトヲ得ヘキモノニシテ其權利ハ物ニ對シテハ間接ノ支配ヲ爲スニ過キス物權ハ之ニ反シテ他人ノ行爲ノ媒介ヲ要セス直接ニ物ニ對シテ行ハルルモノナリト云フニ歸著ス然レトモ此說ハ「ウヰンドシャイド」氏ノ攻擊シタルカ如ク權利ノ本質ヲ誤解セルモノナリト謂ハサルヘカラ

ス氏曰ク權利トハ總テ人ト人トノ間ニ存在スル法律的現象ノ一ニシテ決シテ人ト物トノ間ニ生スヘキ關係ニ非ス權利ハ人格者カ他ノ人格者ニ對シテ有スルモノナリ人ト物トノ間ニ生スル關係ハ事實關係ニシテ法律關係ニ非ス物ノ上ニ行ハルル權利トハ無意義ノ事ナリト蓋シ物權、債權ノ別ナク權利義務ノ關係ハ人ト人トノ間ニ存在スルモノニシテ決シテ人ト物トノ間ニ行ハルル關係ニ非ス物ニ對スル關係ニ付テハ單ニ其物ヲ自己ノ需用ニ應シテ利用シ處分スト云フ事實存スルノミ若シ物ノ上ニ行ハルトノ意味ハ物ヲ直接ニ支配スルコトニ付テ他人ニ對抗スルコトヲ得ル權利ナリトノ意ナリトセハ此說ハ敢テ不當ナラサルヘキモ民法ニ所謂物權ノ定義トシテハ狹キニ失スルモノナリ何トナレハ民法ノ規定ニ依レハ物トハ有體物ニ限定セラルルカ故ニ財產權ヲ以テ其目的ト爲シタル質權又ハ抵當權ノ如キハ直接ニ物ノ上ニ行ハルル權利ニ非サルカ故ニ物權ニ非スト論決セサルヘカラサレハナリ(第三六二條、第三六九條)按スルニ物權ハ人ト物トノ關係ニシテ物ノ上ニ行ハルル權利ナリトノ觀念ヲ生スルニ至リシ所以ハ權利ノ中ニハ一般ノ人ニ對シテ行ハルルモノ例ヘハ所

有權ノ如キ權利ニ對シテハ何人モ積極的ノ義務ヲ有セサルモ一般ノ人ハ此權利ヲ侵害スルコトヲ得サル消極的ノ義務ヲ有スルモノナリ故ニ若シ此消極的義務ヲ破リテ權利ヲ侵害スル者アルトキハ權利者ハ其人ニ對シテ原狀回復又ハ損害賠償ヲ請求スル相對的關係ヲ生スルモノナリ又始ヨリ特定ノ人ニ對シテ特定ノ行爲ヲ要求シ得ル權利即チ特定ノ人ニ對シテ積極的ノ義務ヲ負擔セシムルモノアリ例ヘハ賣買貸借ニ於テ賣主ハ買主ニ對シテ代價ノ支拂ヲ請求シ貸主ハ借主ニ對シテ賃貸物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルカ如シ而シテ此後ノ場合ニ於テモ賣主又ハ買主ノ權利ハ一方ニ於テハ買主又ハ賣主ニ對スル權利ナルモ他ノ一方ニ於テハ社會一般ノ人ニ對抗スル權利ナリトノ觀念ヲ生スルニ至リシナリ即チ何人モ賣買ノ契約書ヲ破リ賣主ノ有スル證據物ヲ湮滅スルコト能ハサル義務ノ如キ是ナリ此ノ如キ見解ヨリ賣買貸借ノ如キ債權ノ關係中ニモ亦對世的關係ヲ有スルモノナリト信シ社會一般ノ人ニ對シテ消極的ノ義務ヲ負ハシムルコトハ所有權ノ場合ニモ又賣買貸借ノ如キ債權ノ場合ニモ共通セルモノナルカ故ニ此共通セルモノヲ兩者ノ定義中ヨリ排斥シテ單ニ

兩者ノ性質ニ付テ定義ヲ下ス傾向ヲ生セシナリ而シテ兩者ニ共通セル要素ヲ除キテ殘存スルモノハ第一ノ場合ニ於テハ人ト物トノ關係ニシテ第二ノ場合ニ於テハ權利者カ特定ノ人ニ對シテ或行爲又ハ不行爲ヲ要求スルニ歸ス是ニ於テ物權トハ直チニ物ノ上ニ行ハルル權利ナリトシ債權トハ特定ノ人ニ對シテ或行爲又ハ不行爲ヲ要求スル權利ナリト云フカ如キ定義ヲ爲スニ至リタルナリ然レトモ此觀念ハ債權ノ關係ニ於テモ仍ホ對世的ノ性質アリト誤解シタルニ基クモノニシテ此誤解ハ債權其モノト債權ヲ保全シ又ハ確實ナラシムルカ爲メニ有スル權利トヲ混同シタルニ基クモノナリ債權ノ絶對的性質ヲ有セサル所以ノモノハ債權ハ一般ノ人ニ對シテ消極的義務ヲ負ハシムルモノニ非スシテ特定ノ人ヲシテ或義務ヲ負擔セシムルモノナルカ故ニ債務者ニ非サレハ之ヲ侵害スルコト能ハサレハナリ債權者ニ非サル第三者カ債務者ヲシテ債務ノ目的ヲ履行セシムルコトアルモ第三者ハ決シテ債權者ノ債權ヲ侵害シタルモノニ非スシテ第三者カ債務者ヨリ不當ノ利得ヲ爲シタルニ過キサルナリ今民法上ノ物權ニ關シ最モ適當ナリト信スル定義ヲ左ニ掲クヘシ

物權トハ物又ハ權利ニ關シ一般ノ人ニ對抗スルコトヲ得ル財產權ナリ

第一　物權ハ財產權ナリ

權利ニハ金錢ニ見積ルコトヲ得ヘキモノト金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノトアリ親權、夫權、人格權ノ如キハ金錢ニ評價シ得ヘキモノニ非ス故ニ此等ノ權利ハ一般ノ人ニ對抗スルコトヲ得ヘシト雖モ財產權ニ非サルカ故ニ之ヲ物權ナリト謂フコトヲ得ス又債權ノ中ニハ財產權ニ非サルモノヲ包含セルハ近世ノ立法例ニ於テ認ムル所ナルモ物權ハ必ス財產上ノ價値ヲ有スヘキモノニシテ金錢ニ評價シ得ヘキモノナラサルヘカラス

第二　物又ハ權利ヲ目的トスル財產權ナリ

債權ハ行爲ヲ目的トスルモノナレトモ物權ノ目的ハ物又ハ權利タルコトヲ要スルモノナリ著作權、意匠權ノ如キモノハ一般ノ人ニ對抗シ得ヘキ財產權ナレトモ物又ハ權利ヲ目的トセサルモノナルカ故ニ民法ニ所謂物權ニ非サルナリ

第三　物權トハ一般ノ人ニ對抗スルコトヲ得ル權利ナリ

權利ニハ一般ノ人ニ對シテ一定ノ事項ヲ主張シ得ヘキモノト單ニ特定ノ人ニ

對シテノミ特定ノ事項ヲ主張シ得ヘキモノトアリ例ヘハ債權ハ債務者ニ對スルニ非サレハ債權ノ目的タル行爲又ハ不行爲ヲ要求スルコトヲ得ス債權債務ノ關係ノ範圍外ニ在ル人ハ何等ノ請求權ヲ有セサルト同時ニ又何等ノ義務ヲモ有セス之ニ反シテ物權ノ法律關係ハ特定ノ人ヲシテ特定ノ義務ヲ履行セシムルモノニ非スシテ一般ノ人ニ對シテ物權ノ目的タル物又ハ權利ニ關シテ消極的ノ義務即チ不作爲ノ義務ヲ負擔セシム若シ一般ノ人カ此消極的義務ヲ破リテ權利ヲ侵害セハ茲ニ始メテ債權債務ノ關係ヲ生スルモノナリ

第二節　物權ノ種類

物權ハ債權ト異ナリ一般ノ人ヲシテ消極的ノ義務ヲ負擔セシムルモノナルカ故ニ若シ當事者相互ノ契約ニ依リ自由ニ物權ヲ創設スルコトヲ得ルモノトセハ契約ニ依リテ一般ノ人ニ對シテ消極的義務ノ分量ヲ增加セシムルコトト爲リ甚タ不條理ノ結果ヲ生スルカ故ニ物權ノ種類ハ法律ヲ以テ之ヲ限定シ法律ニ依ルニ非サレハ之ヲ創設スルコトヲ許サス即チ物權ハ慣習又ハ判決例契約等ニ依リ之ヲ創設スルコトヲ得ス（第一七五條）

物權ハ之ヲ其內容ニ依リテ區別スレハ物ノ總括的支配關係ニ付キ他人ヲシテ消極的ノ義務ヲ負擔セシムルモノト物ノ限定的支配關係ニ付キ他人ヲシテ消極的ノ義務ヲ負擔セシムルモノトノ二ト爲スコトヲ得前者ハ總テノ方向ニ於テ物ヲ支配スル關係ニシテ物ニ關シ總テノ方向ニ於テ他人ノ關係スルコトヲ排斥シ得ヘキ權利ナリ所有權ノ如キ即チ是ナリ後者ハ或方向ニ於テ物ヲ支配スル關係ニシテ物ニ關シテ特定ノ方向ニ限リ他人ノ關係スルコトヲ排斥シ得ヘキ權利ナリ占有權及ヒ他物上ノ權利ノ如キ即チ是ナリ占有權ノ性質ニ付テハ學說區區ニシテ或ハ之ヲ事實ナリト云ヒ或ハ之ヲ權利ナリトシ殆ト定說ナシト雖モ我民法ハ占有權ヲ認メテ之ヲ一ノ物權トスル主義ヲ採用セルカ故ニ我國法ニ於テハ占有權ナルモノノ存在スルコトハ論ヲ俟タサル所ナリ其詳細ナル事ハ占有權ノ章ニ於テ之ヲ說明スヘシ

他物上權トハ他人ノ物ノ上ニ於ケル權利ト云フ意味ニシテ他人ノ物ニ付キ或方向ニ限リ支配スルコトヲ得ル權利ナリ他物上權ノ種類ニ付テハ各國ノ法制

區區ニシテ羅馬法ニ於テハ役權、地上權、永借權、質權ノ四ト爲シ役權ニハ人的役權、地的役權ノ二種ヲ認メ質權ニハ抵當權ニ關スル規定ヲモ包含セリ佛蘭西法ニ於テハ役權、永借權、賃借權、留置權、先取特權、質權、抵當權ノ七種ト爲シ獨逸法ニ於テハ羅馬法ニ於ケル他物上權ノ外ニ土地債務、先買權、定期負擔ヲ認メタリ我舊民法ニ於テハ佛蘭西民法ニ倣ヒ用益權、使用權、住居權、賃借權、永借權、地上權、地役權、留置權、先取特權、質權、抵當權ノ十一種ヲ認メタリシモ現行民法ハ用益權ハ歐洲ニ於テモ漸次其適用ヲ失フノ傾向ヲ有スルノミナラス我國ニテハ未タ其慣習存在セサルカ故ニ之ヲ削除シ使用權、住居權モ亦我國ニ慣習ナキト新ニ物權トシテ之ヲ認ムルノ必要ナキトノ理由ヲ以テ之ヲ削リ賃借權ハ債權ノ性質ヲ有スルモノニシテ物權トシテ規定スヘキモノニ非サルカ故ニ之ヲ除外シ他物上權ノ種類ハ地上權、永小作權、地役權、留置權、先取特權、質權及ヒ抵當權ノ七種ニ限定セリ此等權利ノ性質ニ付テハ各〻其權利ヲ說明スル場合ニ之ヲ詳論スヘシ

物權ハ之ヲ主タル物權、從タル物權ノ二種ニ區別スルコトヲ得主タル物權トハ

國際公法（平時）

法學博士　中村進午講述

緒言

國際法ハ法律ナリヤ否ヤニ付テハ從來學者ノ間ニ議論アル所ナリ或ハ曰ク國際關係ニ於テハ國內法ニ於ケルカ如キ機關ナシ國內法ニハ立法部アリ司法部アリ又行政部アリト雖モ國際公法ニ於テハ現今斯ル機關ノ備ハルナシ是レ國際公法カ法律ニ非サルカ爲メナリト然レトモ此一事ハ未タ以テ國際公法ヲ法律ニ非スト斷定スルノ根據ト爲スニ足ラス何トナレハ今日降雨セサルヲ以テ永久降雨セスト斷スルヲ得サルカ如ク今日機關ノ備ハルナキモ永久ニ國際公法カ法律ニ非スト論斷スルハ決シテ當ヲ得タルモノニ非サレハナリ況ヤ今日

ニ於テハ既ニ不完全ナカラモ國際機關ノ存在スルニ於テヲヤ例ヘハ仲裁裁判所ノ如キ萬國鐵道國際事務所、萬國郵便國際事務所及ヒ萬國電信國際事務所等ノ如キ其他枚擧スルニ遑アラサルナリ故ニ予輩ハ信ス國際公法ハ幼稚ナリ幼稚ナリト雖モ現ニ機關ヲ有シ又ハ將來有スヘキ性質ヲ有スルモノナリ現ニ之ヲ有シ又ハ將來之ヲ有スヘキハ國際公法カ法律ナルヲ以テナリ換言スレハ國際公法ハ法律ナルカ故ニ機關ヲ有シ又ハ將來有スヘキモノナリ然ルニ論者ハ此睹易キ論理ノ形式ヲ誤リ國際公法ハ法律ナラサルカ故ニ機關ナシト解セリ之ヲ譬フレハ論者ハ彼女ハ子ヲ生ミタルカ故ニ女ナリト謂フモノニシテ女ナルカ故ニ子ヲ生ミ又ハ他日生ムヘキ者ナリトノ論理ヲ誤解シタルモノト謂フヘシ

又曰ク國際關係ニ於テハ不完全ナカラモ機關アルコトハ事實ナルモ其機關ノ上ニハ更ニ優等ナル機關ナク隨テ之ニ服從セサルトキハ竟ニ救濟ノ途ナキニ至ルヘシ約言スレハ國際公法ニ於テハ國内法ニ於ケルカ如ク完全ナル制裁ヲ加フルコト能ハス故ニ國際公法ハ法律ニ非サルナリト然レトモ此說モ亦當ヲ得タルモノニ非ス何トナレハ論者ノ言フカ如キ現象ハ國内法上ニ於テモ發見スル所アレハナリ例ヘハ暴徒蜂起シテ政府ヲ顚覆スルコトアリトセハ論者ハ其國ニ法ナシト言フカ凡ソ事物ノ發達セサル前ニ於ケル社會ノ現象ヲ追想スルニ國家カ豫メ法規ヲ定メ人民ヲシテ之ニ依ラシメタルコト殆トアルコトナク偶然ノ結果ヲ採リ若クハ自助ノ力ヲ以テ裁判ノ基本トセルモノ多キコト前ニ述ヘタルカ如シ

飜テ國際公法ヲ見ルニ其終局ニ至リテ戰爭手段ニ依リテ自ラ勝敗ヲ決シ自助ノ手段ニ依リテ萬事ヲ處理スルコトアリ此點ヨリ觀レハ國際公法モ亦事物發達ノ初期ニ於ケル現象ニシテ國内法發生ノ原始ニ於ケル狀態ト毫モ異ナルコトナキナリ然ルニ論者アリ曰ク今日發達シタル國内法ニ於テハ決シテ自助ノ手段ニ依ルヘキモノナシト然レトモ是レ亦誤ナリ何トナレハ此點ニ付テモ國際法ト國内法トノ間ニ擇フ所ナケレハナリ即チ國内法上刑法カ正當防衛ヲ認ムルカ如キ又ハ民法カ質及ヒ抵當ヲ認ムルカ如キ眞ニ發達セサル狀態ニシテ所謂自助ヲ許スモノナリ果シテ然ラハ國内法ハ自助ノ手段ニ依ルコト少ク國

際公法ハ之ニ依ルコト多キニ止マリ結局兩者ハ性質上ノ差異ヲ有スルモノニ非スシテ分量ノ上ニ差等アルモノニ過キサルナリ

以上ノ說明ニ依リテ國際公法カ法律ニ非スト爲スノ反對論ヲ駁セリ予輩ハ國際公法ヲ以テ法律ナリト確信スルモノナリ然ラハ法律トハ何ソヤ曰ク法律トハ團體ノ生存條件ヲ確ムル一種ノ方式ニシテ其團體ノ力ニ依リテ團體員ノ意思行爲ヲ制限スルモノナリ

是ヨリ進ミテ國際公法發生ノ原因ニ付テ說明スル所アルヘシ抑モ自助ナルモノハ利害ノ衝突ヨリ起リタルモノニシテ國際公法ハ國際間ノ利害ノ調和共通ヲ目的トシテ發生セルナリ此ノ如ク論スルトキハ論者或ハ疑ヲ懷ク者アラン曰ク然ラハ國際公法上ニ於テ自助ヲ認ムルハ甚タ矛盾シタル觀念ニシテ國際公法其レ自身カ瓦解スルモノニ非スシテ何ソヤト然レトモ世界ニ國ヲ成スモノハ其數甚タ多ク甲國ノ利トスル所ノモノ乙國必スシモ之ヲ利トセス是ヲ以テ古昔ニ於ケル國際ノ關係ハ利害ノ衝突ニ限ラレタルモ今日ニ於テハ之ニ反シテ利害ノ共通ヲ圖ルヲ以テ國際關係ノ目的ト爲スニ至レリ即チ昔時ニ在リテハ戰爭ヲ以テ原則トシ平和ヲ以テ例外ト爲シ自己ノ利益ハ總テ他ノ不利益ナリ自己ノ不利益ハ總テ他ノ利益ナリトノ觀念ヨリ法律上外國及ヒ外國人ノ權利ヲ認メス外人ニハ權利ノ保護ヲ爲スコトナカリキ彼ノ領事裁判制度ノ如キモ其起源ハ自國ノ法律ハ神聖ニシテ禽獸ノ如キ外國人ニ之ヲ適用セストノ觀念ニ基キシモノナリ然ルニ今日ニ於テハ各國ノ間ニ利益ノ共通ヲ圖リ外國人ト雖モ私權ニ關シテハ內國人ト同一ニ享有スルコトヲ得セシムルニ至レリ今之ヲ法律歷史ニ徵スルニ英國ノ如キハ「クロンウエル」時代ノ頃ニ於テモ尙ホ排外主義甚タ盛ニシテ總テ英國ニ入ルヘキ貨物ハ英國人ノ所有ニシテ其乘組員ノ多數モ亦同國人ナル船舶ヲ以テセサルヘカラストノ主義ヲ採用セリ然ルニ之ニ反對シタルモノハ和蘭ニシテ貨物ノ出入ニ付テ斯ル制限ヲ置カス自國ヲ利スルト同時ニ他國ヲモ利セントセリ此兩主義久シク相爭ヒタルモ遂ニ英國主義ノ敗北ト爲リテ茲ニ世界各國ノ利益ノ共通ヲ圖ランカ爲メニ國際公法發達ノ端緒ヲ生シタルナリ

此ノ如ク國際公法ハ利害ノ共通ナルコトニ其根據ヲ有スルヲ以テ利害ノ共通

ナル無形的ノ强制ニ依リテ發生スルモノナリ詳言スレハ若シ或邦國カ國際法ヲ遵守セサルトキハ其生存條件ヲ充タスコト能ハサルニ至ルヲ以テ國内法ノ如ク主權者カ有形的ニ之ヲ强制セサルモ各國自ラ進ミテ之ヲ遵奉スルニ至ルモノナリ

利害ノ共通ハ總テノ團體ノ上ニ之アルコト明白ニシテ利害ノ共通ナルコトヲ知ラスンハ國際法ハ完全ニ維持セラルルコト能ハス而シテ國内法上ニ於テ之ヲ維持遵守セシムル者ハ主權者即チ强力者ナリ然レトモ國際團體ノ上ニ於テハ最上ノ權力者之アルコトナク此利害ノ共通ニ關スル法律ヲ遵守セサル場合ニ於テハ如何ナル制裁ヲ被ラシムルヤノ方法ハ未タ完備スルナシ果シテ然ラハ何ヲ以テ利害ノ共通ヲ維持スルノ基本ト爲ススカ曰ク誠實ト信用トノ二者即チ是ナリ國内法上ニ於テモ亦利害ノ共通ナルコトヲ飽クマテ遵守セシムルニハ信用ト誠實トノ二者之ナカルヘカラス國際法上ニ於テモ利害共通ノ實ヲ完カラシムルニハ此信用ト誠實トヲ必要トスルモノトス例ヘハ條約ヲ締結シタル場合ニ於テ其締結國一方ハ締結國他方ヲ信用セス又他國ハ之ニ對シテ誠實

ヲ缺クトセンカ條約ハ國家間ニ成立スルモ其效力ヲ見ルコト能ハサルニ至ルヘシ之ト同シク國内法上ニ於テ箇人間ニ貸借ヲ爲シタル場合ニ於テ債權者カ債務者ヲ信用セサランカ債務者モ亦債權者ニ對シテ不誠實ニ流ルルヲ免レス然レトモ國内法上ニ於テハ借主カ其借受ケタル金圓ヲ辨濟期ニ返濟セサレハ貸主ハ國權ニ訴ヘ强制シテ之カ返濟ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ國際法上ニ於テハ縱令相手國カ條約ヲ遵守セサルモ國内法上ニ於ケルカ如ク强制シテ遵守セシムルノ方法ナシ此點ニ於テハ國内法ニハ完全ナル保證アルモ國際法ニハ保證ノ不完全ナルヲ見ルニ過キス誠實ト信用トハ啻ニ國際法上ニ於テ利害ノ共通ヲ保維スル根源タルノミナラス國内法上ニ於テモ亦其根源タルコトハ既ニ述ヘタルカ如シ然レトモ國内法上ニ於テハ主權者ナル保證人アルヲ以テ國際法上ノ關係ニ比シ保證ノ程度遙ニ確實ナリ然リ而シテ國際法上ノ關係ニ於テモ將タ又國内法上ノ關係ニ於テモ猥ニ强制力アルノ故ヲ以テ之ニ服從シ然ラサルカ故ニ服從セスト云フカ如キコトハ甚タ稀ニシテ各國家又ハ各箇人ハ唯自己ノ利益ノ爲メ自由意思ニ依リテ條約又ハ國際法ニ服從スルノミ果シテ然

ラハ利害共通ノ基礎ナルモノハ誠實ト信用トニ在ルコト極メテ明カナルヘシ』誠實及ヒ信用ナルコトハ殆ト法律上ノ意味ヲ爲サスシテ倫理的ノ意味ヲ含ムノミナルカ如キ觀アルモ是レ決シテ道德ノミノ力ニ依ルモノニ非スシテ併セテ物質的ノモノナリ例ヘハ日本ト佛國ト條約ヲ締結シ佛國ヨリ輸入スル物品ニ對シテ二割ノ稅ヲ課スルコトヲ定メタリト假定セヨ此場合ニ於テ我國カ其條約ヲ遵守シテ佛國ノ輸入品ニ對シ二割以上ノ稅ヲ課セサルハ我國ヨリ佛國ニ輸出スル物品ニ對シ佛國ニ於テモ亦條約ニ定メタル以上ノ關稅ヲ課セラルルノ虞アルヲ以テナリ是レ此問題カ單ニ道德的ノモノニ止マラスシテ併セテ物質的ノモノナリト謂フ所以ナリ

國際法ハ國家ト國家トノ關係ヲ規定スルモノニシテ決シテ一私人ヲ拘束スルモノニ非ス國家若シ國際的事件ニ關シテ人民ヲ拘束セント欲セハ國內法ノ力ニ依ラサルヘカラス國際法ハ國家ヲ拘束シ國內法ハ一私人ヲ拘束ス其結果國際法ハ直接ニ人民ニ效力ヲ及ホスモノニ非ス如何ナル國際法アリト雖モ一私人ハ毫モ其法規ニ關係ヲ有セサルナリ

國際公法(戰時)

法學士　秋山雅之介　講述

第一編　緒論

第一章　戰時國際公法ノ性質

國際公法ハ文明諸國一般ノ承認ニ因リ國家相互ノ關係ニ於テ遵守セラルル行爲ノ法則ナリト定義シ得ヘク各獨立國ハ悉ク自主平等ニシテ自國以外ニ法理上自國ヨリ優等ノ地位ヲ有スルモノノ存在ヲ認メス又斯ル優等者ナキニ拘ハラス古來ノ慣習及ヒ條約ニ基キ平時ニ於テハ互ニ友誼國トシテ一定ノ法則ノ下ニ立チ又戰爭アル場合ニ於テハ紛爭國ハ交戰國トシテ敵國ニ對スルト同時ニ第三國ナル中立國ニ對シ又其第三國ハ自ラ中立國トシテ交戰國雙方ニ對シ

テ特別ナル法則ノ支配ヲ受クヘキモノトス隨テ國際公法ヲ說述スルニ當リ便宜上之ヲ平時及ヒ戰時ノ二種ニ區別シ平時國際公法ニ於テハ國家相互間ノ平和關係ヲ說キ戰時國際公法ニ於テハ交戰關係ノ法則及ヒ交戰國ト中立國トノ關係ヲ說明スルヲ普通トス

國際公法ハ內國法ト其性質ヲ異ニシ內國法ハ主權者ノ制定若クハ認定シタル國內ノミニ原則上行ハルル法則ニシテ其遵奉ヲ主權者カ最高無限ノ權力ヲ以テ强制的ニ執行スルモノナレトモ國際公法ハ文明團ニ於ケル列國一般ノ承認ニ基キ其任意ニテ國家カ自ラ遵守スル國際上ノ法則ヲ綜合シタルモノニシテ古來法學者ノ國際關係ニ付キ唱道シタル道理ニ基キ列國ノ實踐シツツアル國家行爲ノ慣例ニ外ナラサルヲ以テ國家間ニハ固ヨリ立法府ノ其法則ヲ制定又ハ認定スルモノナク司法廳ノ國際爭議ヲ審理シ其曲直ヲ判定シ之ヲ執行スルモノナキニ由リ第十七世紀以來國際公法ノ一科學トシテ存在シ又現ニ列國間ニ實行サレ來リタルニ拘ハラス其發達ハ遲遲トシテ諸國ノ內國法ニ比スレハ今日尙ホ不完全ナルヲ免レス而シテ其比較的不完全ナル法則ニ依リ複雜ナル列國ノ國際關係ヲ處理スルニ當リテハ國家間ニ或ハ利害ノ衝突ヲ來シ感情ノ牴觸ヲ生シ權利義務ノ見解ヲ異ニシ國際紛議ノ生スルコトハ社會ノ交通頻繁ト爲ルニ隨ヒ其數ノ愈〻多キヲ加フヘキハ自カラ免ルヘカラサル所ニシテ斯ル紛議ハ當事國間ノ外交談判又ハ他國ノ周旋居中調停若クハ今世紀ニ於テ盛ニ行ハルル仲裁裁判ニ依リテ無事ニ終局ヲ見ルコトアレトモ列國ハ素ト自主獨立ニシテ其內政及ヒ外交ニ付テハ漫リニ他國ノ容喙ヲ許ササルヲ以テ當事國ハ互ニ其是トスル所ヲ主張シ他ニ其曲直ヲ裁判スルモノナキニ由リ國家ハ往往兵力ニ訴ヘテ其要求ヲ貫徹セント欲シ又斯ル場合ニ其要求ヲ貫徹セントセハ兵力ニ依ルノ外ナキヲ以テ國際公法ニ於テモ戰爭ヲ以テ國際紛議ヲ決スルノ最後ノ手段ト爲ササルヲ得ス

國際公法ノ趣旨トスル所ハ「モンテスキュー」ノ言ヘル如ク諸國カ其相互ノ利益ヲ害セサル範圍內ニ於テ平時ニ當リテハ爲シ得ル丈ノ善行ヲ努メ戰時ニ於テハ爲シ能フ限リ惡行ヲ避ケントスルノ道理ニ基キタルモノニテ其法則ハ戰爭ニ關スル法則ヨリシテ先ツ發達シ希臘羅馬時代ニ於テハ外國人ヲ敵人野蠻人ト

同一視シ外國ニ對シテ常ニ敵國ノ關係ニ立チタル當時ニ於テスラ戰爭ニ關シテ諸種ノ法則カ存在シ又中世ニ於ケル地中海沿岸ノ諸都市間ニ行ハレタル海上ノ慣例法ハ海戰ニ關スル現行法ノ基礎ト爲リタルニ拘ハラス戰爭ニ於テハ交戰國カ兵力ニ訴ヘ其勝敗ハ國家ノ盛衰乃至其生存ニ影響スルモノナルカ故ニ斯ル安危ノ別カルル爭鬪ニ從事スルニ際シテハ互ニ自衛他排ニ急ニシテ對敵者ノ生命財產ヲ深ク顧ミルノ遑ナキニ由リ自他ノ權利關係ヲ論スル國際公法ノ發達ハ自カラ不完全ヲ極メ斯法ノ始祖タル和蘭國ノ法學者「ヒューゴー、グロシュース」カ千六百二十五年「戰爭及ヒ平和ノ法」(De jure Belli ac pacis)ト題スル著書ヲ公ニシ人類社會ニハ自然法ナルモノ存在シ各人ハ其法則ノ支配ヲ受クヘク箇人ノ集合體タル國家モ其法則ニ據ラサルヘカラスシテ其相互間ニ於テモ同法則ヲ遵守スルノ義務アルコトヲ唱ヘ以テ國際公法ノ基礎ヲ置キタルニ當リ著者ノ目的トセシ所ハ主トシテ中世以來歐洲ノ戰爭ニ於テ行ハレ來リタル殘忍ヲ愼マシメ戰爭ノ害毒ヲ減却セントスルニ在リテ平時ニ於テヨリモ寧ロ戰時ニ關シ諸國ノ行動スヘキ法則ニ重キヲ置キ同氏前後ノ法學者モ平時ノ法則ヨリ却テ戰時公法ヲ重視シタルニ拘ハラス少クモ第十八世紀ノ末ニ至ルマテハ其發達ノ見ルニ足ルモノナクシテ古來ノ學說竝ニ現今諸國ノ慣例ニ於テモ其法則ニ付キ一定セサルモノ多ク就中局外中立ニ關スル法則ノ如キハ第十九世紀以來ノ發達ニ屬シ學說竝ニ諸國ノ慣行カ互ニ牴觸シ殆ント其是非ヲ識別スルニ苦ムモノ少カラス

國際公法ノ法則ハ國家ノ新舊、大小、强弱ニ依リテ其權利義務ニ多少ノ差異アルコトナク交戰國間ニ在リテハ戰爭ノ開始ト同時ニ平時ニ於ケル友誼的國交ヲ遮斷シテ互ニ敵國ニ對シ暴力ヲ加ヘ得ヘキ特別ノ關係ヲ生スヘキモノナレトモ古來野蠻人間ノ爭鬪ニ於テスラ固ヨリ殘忍ノ行爲少カラサルト同時ニ敵人ニ對シ幾分ノ好誼ノ存在シタルコトハ歷史上疑ナクシテ同一ノ事實アルコトハ人類社會ニ必然伴フノ現象ト看ルヘク斯ル好誼ハ世ノ文明ニ趨キ人情ノ發達ニ伴ヒ戰爭ノ慣例ヲ作リ起シ今日ニ於テハ戰爭ニ關シテ儼然タル慣習上ノ法則カ存在シ苟モ戰爭ノ目的ヲ達スルニ直接ノ關係ナキ殘忍ノ行爲ハ爲スヘカラサルコトト爲リ戰爭ニ於テ强力ノ使用ハ道德ヲ有スル社會ニ於ケル國家

ノ性格ニ伴フヘキ制限ノ存スルニ至リ交戰國ハ互ニ其戰爭ノ目的ヲ貫クニ必要ナル範圍内ニ於テ强力ヲ用ヒ得ヘキニ過キス戰爭ノ目的ハ敵國ヲシテ自國ノ要求ヲ容レシムルニ在リテ我カ要求ヲ容ルルニ至ラシムヘキ强力ノ程度ハ抽象的ニ一定スルコト能ハス敵人ノ抗抵如何ニ因リ之ニ對スル暴力ニモ大小ノ差アルヘキ筈ナレトモ此點ニ關シテハ國際慣習ヨリシテ列國一般ニ適用シ得ヘキ一定ノ程度ヲ作リ起シ敵國抗抵力ノ種類及ヒ强弱ニ依リテ戰爭ニ使用スル强力ノ程度ニ差異ナキニ至リ斯ル慣習ハ即チ交戰關係ニ於ケル現行法則ヲ組成スルモノトス

局外中立ノ法則ハ前述ノ如ク第十九世紀ニ入リテ發達シタルモノニシテ局外中立(Neutrality)ナル國際公法上ノ用語ハ千七百五十八年瑞西國ノ法學者「ヴァテル」ノ著書ヨリシテ甫メテ一定シタルモノトス隨テ其法則ハ戰時國際法中ニ於テモ今尚ホ幼稚ニシテ國際關係ノ發達セサリシ希臘羅馬時代ニ於テハ自國ノ與國ニ非サル外國ハ悉ク敵國ト思考シタルヲ以テ固ヨリ局外中立ノ觀念ナク中世ニ於テハ歐洲全體ヲ通シテ平和ト戰爭ノ關係アリタルノミニシテ一戰爭ノ

起ル毎ニ其他諸國ハ其交戰國ノ一方ニ加勢スルニ非サレハ必ス敵國ノ地位ニ立チタルモノナリシカ第十六世紀ノ頃ヨリシテ國家間ニ條約ヲ以テ「締約國ハ決シテ其友誼國ニ對スル敵國ヲ助勢セス又其人民ノ敵國ヲ援助スルコトヲ妨クヘシ」トノ約定ヲ豫メ爲スモノ多キニ至リ第十七世紀ノ戰爭ノ多數ハ殆ント海上ニ有力ナル國家間ニ於テシ海上ノ戰爭ハ陸上ノ戰爭ニ比スレハ第三國ノ交通通商上其利害ニ一層大ナル關係ヲ有シタルカ故ニ第十八世紀ノ學者ハ局外中立ニ關スル諸問題ヲ研究シ千七百八十年及ヒ千八百年「バルチック」海沿岸諸國ノ武裝中立ハ局外中立ノ權利ヲ主張シ佛國革命戰爭及ヒ那破翁戰爭中米國カ中立國トシテ取リタル强硬ナル態度ニ因リ第十八世紀ニ於テ「ヴァテル」「マルテンス」等ノ爲メ唱道セラレタル學說ノ實行ヲ見ルニ至リ甫メテ其法則ノ發達ヲ見ルニ至リタルモノトス

然レトモ局外中立ノ法則中第三國カ國家トシテ局外中立ノ地位ニ關スルモノハ近來ノ發達ナルニ拘ハラス交戰國カ第三國ニ所屬スル船舶其他ノ財產ニ對スル權利行使ノ法則ハ中世ニ於テモ地中海沿岸ノ諸都市間ニ行ハレ第十四世

紀ノ「コンソラトー、デル、マール」(Consolato del mare)法典ニ於テモ其規定アリ此等ノ法則ハ第十六、七世紀ニ於テ海上ニ有力ナリシ和蘭國及ヒ其後有力ト爲リタル英國カ前者ハ陸軍ノ小ナルニ因リ又後者ハ地理的關係ヨリシテ常ニ大陸ノ戰爭ニ關シテ局外中立ノ地位ニ立ツコトヲ努メ又實際第三者ノ地位ニ立チタルカ爲メ其發達ヲ促サレ遂ニ現今ノ法則ヲ作リ起シタルモノニシテ要スルニ局外中立法ノ一部ハ其起源ハ中世ニ在リタルニ拘ハラス國家トシテノ局外中立關係ハ百年以來ノ發達ニ屬ス此故ニ「ホール」ノ言ヘル如ク國家ハ第十七世紀ノ中頃以來戰爭ニ關シテ第三者ノ地位ヲ保チ得ヘク又其地位ニ立ツコトヲ適當ト認ムルニ至リ交戰國ハ互ニ第三國カ自國ノ敵國ヲ助勢スルノ不利益ヲ除カントスルト同時ニ第三國ハ自國ニ關係ナキ他國間ノ戰爭ニ關與スルノ不利益ヲ認メ戰爭中ト雖モ交戰國雙方ニ對シテ平和ノ交通、通商ヲ繼續スルノ利益ヲ得ントスル二原因ノ相投合シテ以テ戰時國際法中第三國ハ局外中立トシテ戰爭以外ニ立ツノ權利義務ヲ認ムルニ至リタルモノニシテ素ト局外中立ノ關係ハ第三國カ交戰國間ノ戰爭ニ關與スルコトナク雙方ニ對シテ平時ノ國交ヲ繼續シ自ラ戰爭ノ進行ヲ妨害セサルト同時ニ戰爭ノ爲メ自國ノ利益、權利ヲ侵害セラレサルノ地位ヲ意味スルカ故ニ局外中立法ノ一部ハ平時ニ於ケル法則ヲ敷衍シテ交戰國ト中立國トノ關係ヲ定メ他ノ一部ハ平時ノ法則ト交戰者ノ戰爭遂行ノ權利ニ關スル法則トノ推測上抵觸シタルモノノ折衷ニシテ又他ノ一部ハ戰爭中實際諸國ノ利害カ衝突シタル事件ノ結果ニ出テタル實例ニ基クモノニ屬シ此等平和關係ノ法則ハ戰爭關係ノ法則ト互ニ相容レサル所アルノミナラス戰爭ニ際シ交戰國トシテ敵國ニ對スルモノト中立國トシテ同一國ニ平和關係ヲ有スルモノトノ利害關係ノ互ニ衝突スルコトアルハ自然ノ勢ニシテ其法則ノ折衷ニ出テタル局外中立ノ法則モ亦劃然タルコト能ハサルハ言フヲ俟タス況ヤ其法則ノ發達ハ日尚ホ淺キカ故ニ實例ト爲ルヘキ諸問題ニ付テモ未タ議論ノ一定セスシテ先例ノ價値ヲ有スルモノ甚タ尠ク啻ニ其諸法則ノ枝葉カ互ニ一定セサルモノ多キノミナラス局外中立ノ法則全體ニ付キ學說ノ傾向モ亦二派ニ岐レ一ハ中立國ノ便宜ヲ主トシ平和關係ナル國家ノ權利ヲ基礎トシ一ハ交戰國ノ便宜ニ基キ戰爭ノ權利ニ重キヲ置キテ立論スル者アリ然レ

トモ中立關係ノ法則ハ古來交戰者カ戰爭ニ關シテ無限ノ暴力ヲ行使シ來リタル法則ノ制限ヨリ發達シ第十九世紀以來其法則發達ノ傾向ハ交戰國ノ權利ヲ限局スルト同時ニ多數ナル中立國一般ノ權利ヲ擴張シ來リタルモノトス

第二章　戰爭ノ定義

戰爭ニ關シ古來法學者ノ下シタル定義ハ千差萬別ニシテ

「アルペリカス、ゼンチリス」ハ「正當即チ正式ノ方法ニ依リ兵力ヲ以テスル公然ノ爭ナリ」トシ

「グロシュース」ハ「兵力ヲ以テ其爭ヲ決スルモノノ狀態ヲ謂フ」トシ

「ビンケルショーク」ハ「獨立者間ニ於テ其權利ノ主張ニ基キ强力又ハ詐術ヲ以テスル爭ナリ」トシ

「ヴァテル」ハ「吾人カ兵力ニ依リ吾人ノ權利ヲ實行スルノ狀態ナリ」トシタルカ如キハ悉ク戰爭ノ定義ヲ廣義ニ失シ國際公法ニ於ケル研究範圍以外ナル兵力爭鬪ヲモ戰爭トシテ論定シタルモノトス何トナレハ此等定義ニ依ルトキハ箇人間ニ於テ兵器ヲ以テスル爭鬪ヲモ戰爭ノ名義中ニ包含シ得ヘク又現ニ「グロシュース」ハ箇人間ノ兵器ヲ以テスル爭鬪ヲモ戰爭ノ定義ノ說明中ニ包含シタルモノナレトモ今日ニ於テハ斯ル箇人間ノ兵力爭鬪ハ國家ノ公安ヲ害スル犯罪ニシテ國內事項ニ止マリ之ヲ規律スヘキモノハ各國ノ內國法ニ屬シ國際公法ニ所謂戰爭ニ非ス又近世ノ學者中

「マッセ」ハ「戰爭トハ二國民ニシテ其爭議ヲ平和的ニ裁判シテ終局セシムヘキ共通ノ政權者ヲ有セサルモノノ間ニ於ケル紛爭ヲ兵力ニ依リテ決スルノ方法ナリ」トシ

「フィリモール」ハ「戰爭トハ國家カ事物ノ性情ニ基キ又何等其通ノ高等法廷ヲモ有セサルヨリシテ其權利ヲ主張及ヒ保護スル爲メ已ムヲ得ス採ルヘキ行爲ニシテ國際的權利ノ實行ナリ」トシ

「ブルンチュリー」ハ「國家又ハ國民カ他國又ハ其人民ニ對シ兵力ヲ使用シテ其權利ヲ尊重セシムル行爲ノ集合ナリ」トシ

「ホイートン」ハ「戰爭トハ獨立ニシテ主權ヲ有スル國家間ニ於テ兵力ヲ以テス

ル爭ナリ」トシ

「デビス」ハ「戰爭トハ國家間若クハ國家ノ部分間ニ於ケル兵力爭鬪ナリ」トシタルカ如キ戰爭ノ定義ハ各學者ニ依リ之ヲ異ニシ一定シタルモノナシト雖モ簡明ナル定義トシテハ「ローレンス」ハ左ノ如ク云ヘリ

戰爭トハ國家間又ハ國家ト其爭鬪ニ關シテ國家ノ權利ヲ有スル團體トノ間ニ公然兵力ヲ以テスル爭ナリ

此定義ニ依リ斯法上戰爭ノ性質ヲ分析說明セハ(第一)國際公法主體間ノ爭ニシテ國家ト國家トノ間ニ於ケル爭鬪ナルカ又ハ國家ト交戰團體トノ間ニ於ケル爭鬪ナルヲ要シ(第二)公然ノ爭鬪ナルコトヲ要スルカ故ニ國家又ハ交戰團體ノ正當權力ニ基キ其命令ノ下ニ行ハルル爭鬪ナルコトヲ必要トシ(第三)其爭鬪ハ紛爭國間ノ紛議ヲ兵力ニ依リテ決セントスルニ在ルカ故ニ陸海軍ナル一定ノ組織ヲ有スル軍隊又ハ艦隊ヲ以テセサルヘカラス尙ホ之ヲ詳說セハ

第一　戰爭ハ國家間又ハ國家ト交戰團體間ノ爭鬪ナリ

古來法學者ハ戰爭ヲ分類シテ公戰、私戰、混戰又ハ社會戰爭トシ或ハ進擊戰爭、防

禦戰爭及ヒ補助戰爭ニ區別シ又ハ完全戰爭及ヒ不完全戰爭、適法戰爭及ヒ不適法戰爭トシ更ニ其戰爭ノ原因ニ關シテ政治上及ヒ宗教上ノ戰爭、獨立戰爭、干涉戰爭等種種ノ區別ヲ設ケタレトモ現行國際公法上斯ル分類ハ今日之ヲ認ムルノ必要ナシ然レトモ國際公法ハ領土主權ヲ基礎トスルカ故ニ其分類ノ稍、價値アルモノハ對內戰爭及ヒ對外戰爭ノ區別トス總テ戰爭ハ國內ニ於ケルモノト國外ニ對スルモノトアリテ前者ハ固ヨリ內亂ニ屬シ後者ニ付テハ他ノ國家ニ對スルモノト海賊又ハ野蠻人ノ團體等ニ對スルモノトアリ就中海賊又ハ野蠻人ノ團體ノ如キハ斯法上ノ權利義務ヲ有スルモノニ非ス又之ヲ有スルノ性格即チ能力ナキカ故ニ自カラ國際公法ノ主體ニ非ス隨テ此等團體間並ニ國家カ斯ル團體ニ對スル戰爭ハ決シテ斯法ニ論スル戰爭ニ非ス又國內ニ於ケル反亂ハ其國ニ於ケル刑法上ノ犯罪ニ屬シ反亂中ト雖モ外國トノ關係ニ於テ其團體ハ依然同國ノ人民ニシテ固ヨリ本國ヨリ獨立シタル斯法ノ主體ニ非サルヲ以テ同戰爭ハ內國關係ニ止マリ原則上斯法ニ所謂戰爭ニ非ス然レトモ其內亂者ヲ本國又ハ第三國ヨリ交戰團體ト承認スルトキハ同團體ハ其承認ヲ爲シタル

國家ニ對シ戰爭行爲ニ付テハ國際公法ニ依リ支配セラルルカ故ニ戰爭ノ主體ト爲ルモノトス此故ニ國際公法ニ論スル戰爭ハ國家ト他ノ國家トノ間ニ於テスルカ又ハ國家ト交戰團體トノ兵力爭鬪ニ限リ苟モ斯ル爭鬪ナル以上ハ其戰爭ノ發生シタル原因如何ヲ問ハス悉ク斯法上ノ戰爭トス何トナレハ國家間ニ紛爭ノ生スルニ當リテハ其紛議ハ紛爭國間ニ於テ先ツ外交談判ニ依リ平和ニ之ヲ處理セントスルニ拘ハラス若シ平和ノ終局ヲ見ルコト能ハサルトキハ前述ノ如ク兵力ニ依リテ之ヲ決スルノ外ナク縱令其一國カ自國ノ便益上ヨリ枉ケテ其意見ヲ主張スル場合ニ於テモ其問題ニ關係ヲ有セサル第三國ヨリシテハ濫ニ之ニ容喙スルコト能ハサルノミナラス古來戰爭ノ多クハ其原因最モ錯綜シ居ルヲ當トシ宣戰ニ於テハ互ニ對手國ノ爲メ自國ノ權利ヲ蹂躪セラレ開戰ノ已ムヲ得サルニ出テタルコトヲ聲言スルヲ普通トスト雖モ其裏面ヲ窺フトキハ却テ權利ノ問題ニ非ス利害又ハ感情ノ衝突其他種種ノ事情ヨリシテ戰爭ニ至ルモノ少カラサルカ故ニ其宣戰ノミヲ以テ容易ニ戰爭ノ原因ノ眞僞及ヒ當否ヲ知ルコト能ハサルカ故ニ國際公法ニ於テ國家カ戰爭ヲ爲シ得ヘキ原因ニ付キ一定ノ法則ヲ設クルコト極メテ困難ナルノミナラス假ニ其法則ヲ設定シ得ヘシトスルモ其法則ニ起因セサル戰爭ヲ爲スモノアルトキハ其原因ノ當否ヲ判定シテ一定ノ法則ヲ强行スルノ機關ナキカ故ニ國際公法ニ於テハ戰爭ノ原因如何ニ拘ハラス均シク斯法上ノ戰爭ト看做シ交戰者雙方ヲ同一地位ニ置キ各其戰爭ニ關シテ開戰ノ權利アルモノト看做シ單ニ戰爭ノ進行上其行爲ニ關スル權利義務ヲ論定スルノ外ナシトス

然レトモ國際公法ニ於テハ戰爭ノ原因如何ヲ問ハサルノ道理ヲ誤解シテ國家ハ如何ナル原因ニテモ他國ニ對シテ開戰シ得ヘキモノト爲スコト能ハス何トナレハ戰爭ハ國際紛議ヲ決スルノ最後ノ手段ニシテ國家カ何等ノ理由ナク又ハ不正ニ他國ニ對シテ戰爭ヲ惹起スルハ國際公法ノ違反ニシテ斯ル場合ニ於テハ列國一般ノ批難ヲ來シ自國ノ威信ヲ永遠ニ失墜スルノミナラス他國ハ之ヲ干渉ノ理由ト爲シ得ヘシ加之國家ハ他國ヨリシテ其權利若クハ利益ヲ不正ニ侵害セラレタル場合ニ於テハ先ツ成ルヘク平和的ニ外交談判ヲ以テ其救濟賠償ヲ求メ戰爭ニ至ラシメスシテ之ヲ終局スヘキ手段ヲ講スルノ義務ヲ有ス

ルモノニシテ茲ニ戰爭ノ開始ハ交戰者雙方ノ權利行使ニシテ原因如何ヲ問ハスト云フハ既ニ國家間ニ戰爭ノ生シタル以上ハ其戰爭中交戰者ノ戰爭ニ關スル權利義務ニ付キ雙方ニ於テ同シク其戰爭ヲ開始スルノ理由アリタルモノトシ開戰ハ其ニ其權利ノ實行ト看做シテ之ヲ同一ノ地位ニ置キ論定スルニ過キス而シテ其戰爭中交戰者雙方ハ戰爭ニ關スル國際公法ノ法則ニ依リ之ヲ遂行セサルヘカラサルコトハ國家カ文明國間ニ介在シ居ルノ必要條件上其法則ヲ遵守スルノ義務ニ基クモノトス

第二　戰爭ハ公ノ爭ニシテ交戰者ノ正當權力ノ命令ニ基カサルヘカラス

戰爭ハ國家間又ハ國家ト交戰團體ノ間ニ於テ戰爭ヲ開始スル意思ヲ以テスル兵力ノ爭ナルカ故ニ其政治機關ノ正當ナル命令ニ依リ遂行スルニ非サレハ戰爭ニ非ス隨テ二國人民カ兵器ヲ取リテ爭鬪スルモ戰爭ニ非スシテ斯ル場合ニ於テハ同爭鬪カ公海ニ於テ二箇國ノ船舶間又ハ無所屬地ニ於テ行ハルルトキハ其人民ノ所屬スル各本國又ハ公海中ニ於ケル一國ノ船舶内若クハ一國ノ版圖内ニ於テスルトキハ爭鬪行爲地又ハ船舶ヲ管轄スル國家カ之ヲ處分スヘク又二箇國ノ軍隊若クハ軍艦カ本國ノ命令ニ依ラス司令官其他將士ノ專斷ヲ以テ兵火ヲ交フルコトアルモ之カ爲メ國家間ニ戰爭ノ關係ヲ生セスシテ其將士ノ所屬スル各政府ハ其紛擾ヲ平和的ニ處理シ爭鬪ノ將士ヲ罰シ斯ル行爲ノ爲メ損害ヲ受ケタル國家ニ對シ本國ハ謝罪其他相當ノ救濟ヲ爲スノ責任ヲ有スルニ過キス更ニ又紛爭國政府ノ命令ニ依ル兵力上ノ加害ニ於テモ其命令タル本國カ戰爭ヲ開クノ意思ニ非サルモノハ戰爭ニ非スシテ報仇及ヒ平時ノ封鎖ノ如キハ國家ノ命令ニ基キ兵力ヲ以テ對手國ヲ攻擊スルコトアレトモ對手國ニ於テ之カ爲メ戰爭ヲ開始セス其加害國ニ於テモ其紛議ヲ戰爭ニ至ラシメスシテ無事ニ終局セシムルカ爲メ對手國ヲシテ自國ノ要求ヲ容レシメントスル强制手段ニ止マルトキハ之ヲ戰爭ト云フコト能ハス

第三　戰爭ハ交戰者間ニ於ケル兵力上ノ爭ナルコトヲ要ス

戰爭(Mar. guerre)ナル用語ハ素ト日耳曼古代ノ語ナル Wehr 又ハ Wehrra ヨリ生シ同語ハ防禦ヲ意味シ兵力ヲ以テスルモノナルカ故ニ國家間ノ紛議ニ關シ平和手段又ハ强制手段ニ依リ公ナル紛爭ヲ生スルモ陸海軍ヲ用フルコトナク其談

判ノ繼續スル間ハ戰爭ニ非スシテ戰爭ニ於テハ交戰者間ニ平和的國際關係ヲ絶ツモノナレトモ平和關係ノ杜絶ハ必スシモ戰爭ニ非ス千七百九十三年露國ハ佛國ニ對スル一切ノ交通ヲ絶チ其條約ヲ廢棄シ佛國船舶ノ自國港内ニ入ルコトヲ禁シ又自國ニ於ケル佛國人民ハ本國ニ於ケル革命主義ヲ否認スル宣誓ヲ爲シタル者ノ外ハ悉ク國境外ニ追放シタルニ拘ハラス兩國間ニ戰爭ヲ生セス又千八百四十八年西國内亂ニ際シ同國ハ英國公使カ政府ノ反對黨ニ與シタリトノ口實ヲ以テ同公使ヲ追放シ英國ハ此處理ニ關スル正當ノ辯解ヲ得サリシカ故ニ倫敦駐劄ノ西國公使ニ退去ヲ命シ之カ爲メ二箇年間兩國ハ其國交ヲ絶チタレトモ戰爭ト爲ラサリシハ其適例ナリ要スルニ戰爭ハ國家カ陸海軍ノ兵力ヲ以テ其紛爭ヲ決セントシ其結果トシテ平和關係ノ杜絶スルモノナラサルヘカラス

第三章　戰爭ノ主體

戰爭ニ於テ斯法上ノ權利義務ヲ有スルモノハ獨立ナル主權國ニ止マラス被保護國ノ如キモ亦他國トノ戰爭ニ於テ同シク斯法ノ支配ヲ受クヘク之ニ反シテ屬國又ハ合衆國ノ各州ノ如キ主權國ノ一部又ハ其版圖ナル國若クハ殖民地ノ如キ本國領土ノ一部ハ本國ヨリ獨立ナル國際公法ノ主體ニ非サルカ故ニ其戰爭ハ國内事項ニ止マリ斯法上ノ戰爭ニ非ス又交戰者ノ一方ハ獨立國ナルモ他ノ一方ニシテ野蠻人團體ナルカ如キハ同シク斯法ノ支配ヲ受クルモノニ非サルコトハ前述ノ如シ此故ニ普通各國ノ國法ニ於テハ内亂ヲモ戰爭ト名ケ我國ニ於テモ明治十五年七月第三十七號布告ヲ以テ「總テ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス」ト規定シ各國ノ國内法ヲ以テ戰時ト稱シ戰爭ト名クルハ固ヨリ各國ノ自由ナレトモ其國法上ノ規定ハ國際公法ニ謂フ所ノ戰爭ノ如何ニ關係ナク「カルヴォー」「デビス」ハ戰爭ノ名稱中ニ内亂ヲモ包含シタルニ拘ハラス内亂ハ原則上國内事項ニシテ斯法ニ於テ其行爲ヲ論定スヘキ戰爭ニ非ス然レトモ内亂者ノ勢力カ强大ナルトキハ本國ニ於テモ悉ク之ヲ刑法ニ照シ犯罪者トシテ處刑スルコトハ言フヘクシテ實際行ハルルコト能ハス殊ニ其戰爭ニ關スル行爲カ海上ニ於テ行ハルルトキハ其

內亂者カ第三國ノ船舶人民ニ對スル行爲ニ付キ本國政府ハ諸外國ニ對シテ責任ヲ負フコト事實上爲シ得ヘカラサルコトアリ又他國モ斯ル場合ニ於テ其責任ニ付キ事實上本國政府ヲ責メ得ヘカラサルニ由リ本國政府ハ已ムヲ得ス其內亂者ヲ自ラ交戰者ト承認シ第三國モ亦其任意ヲ以テ本國ノ承認ニ先チ若クハ其承認ノ後ニ於テ斯ル內亂者ヲ交戰者ト承認シ得ヘク斯ル場合ニ於テ其承認ヲ受ケタル團體ヲ交戰團體ト稱ス

本國又ハ第三國カ反亂者ニ對シ交戰者ノ承認ヲ與フルハ明示ニ依ルコトアリ默示ニ出ツルコトアリテ本國カ之ヲ交戰者ト公然言明シ又ハ第三國カ戰爭中局外中立ノ宣言ヲ爲スカ如キハ明示ノ承認ニシテ默示ノ承認トハ本國カ交戰國間ニ行ハルル關係ヲ反亂者ニ對シテ生スルカ又ハ第三國カ自ラ中立國タル關係ト看ルヘキ行爲ヲ其團體ニ對シテ爲ス場合トス就中本國ハ反亂者ヲ成ルヘク犯罪人ト看做シ其勢力ヲ削キテ以テ速ニ之ヲ鎭定セントスル勉ムルコト普通ナルカ故ニ容易ニ明示ノ承認ヲ爲ササルヲ以テ其行爲ニ付キ暗默ニ承認ヲ與ヘタルヤ否ヤヲ知ルノ必要アルコト多キニ反シ第三國ハ自國ノ利害關係上其態度ヲ明カニスルノ必要ヨリ局外中立ノ宣言ヲ以テスルヲ普通トス而シテ交戰者ノ承認ハ本國ヨリ爲スト第三國ヨリ與フルトヲ問ハス左ノ效果ヲ生スルモノトス

第一　同團體ハ戰爭中承認國ニ對シ戰爭法ニ關スル國際公法ノ主體ト爲リ交戰者タル承認ハ國家トシテノ承認ニ非スト雖モ戰爭行爲ニ關シテ獨立國ノ有スヘキ權利義務ヲ承認國ニ對シテ取得スルモノトス隨テ本國ヨリ承認シタル場合ニハ之ト同時ニ反亂者ハ國法上ノ犯罪者ニ非スシテ敵人タル關係ヲ有シ又第三國ノ承認ニ於テハ之ト同時ニ同國ハ局外中立ノ法則ニ支配セラレ交戰團體ハ交戰國タル權利義務ヲ有スルモノトス

第二　承認カ一タヒ與ヘラレタルトキハ關係諸國ノ同意ヲ以テスルニ非サレハ取消スコト能ハス凡テ承認ハ承認國ト被承認團體トノ間ノ關係ニ止マリ而モ各既存國家ニ於テ法律上ヨリ論セハ恩惠的ノ行爲ナルカ故ニ第三國ヨリ其承認ヲ與フル場合ハ勿論縱令本國ヨリ其承認ヲ爲スモ決シテ他國ニ代リ又ハ諸國ヲ代表シテ爲スモノニ非スシテ其承認ヲ爲スト否トハ各國ノ任

意ニ屬シ本國カ之ヲ與フルモ他國ハ同一ノ承認ヲ爲スノ義務ナキト同時ニ他國ニ於テ與フルモ本國ハ尙ホ之ヲ內亂者トシテ待遇シ得ヘシ然レトモ一タヒ其承認ヲ與ヘタルトキハ承認國ハ任意ニ取消ヲ爲スコト能ハス何トナレハ其承認ノ影響ハ承認國ト團體トノ間ノミニ止マラス若シ本國カ取消ヲ爲サントセハ其承認ノ爲メ第三國タル諸國及ヒ其人民カ反亂者ニ對シテ有スル權利義務ノ關係ヲ變シテ本國自ラ之ヲ有スヘキ結果ヲ生シ第三國カ自國ノ承認ヲ取消サントセハ反亂者ノ行爲ニ付キ本國ニ再ヒ其責任ヲ負ハシムルニ至ルヘキヲ以テナリ此故ニ本國ト第三國トヲ問ハス承認ヲ取消サントセハ其承認ノ爲メ影響ヲ受ケタル關係諸國ノ同意ヲ要スル所以ニシテ斯ル同意ハ實際容易ニ行ハルヘキモノニ非ス但交戰團體ノ勢力カ振ハスシテ本國ノ爲メ征討セラルルトキハ交戰者ノ承認モ自カラ消滅スルハ論ヲ俟タス

第三　承認ノ效果ハ之ヲ與ヘタル時日以後ニ向ヒテ效力ヲ有シ國家ノ承認ノ如ク遡及力ヲ有セス何トナレハ交戰團體ハ其承認ヲ受クルニ至ルマテハ本國ノ領土及ヒ國民ノ一部ニシテ反亂ハ國內關係ニ止マリ本國又ハ第三國ヨリ承認アリテ始メテ獨立ノ權利義務ヲ有スルモノナルヲ以テナリ

第三國ヨリ他國ノ反亂者ヲ濫ニ交戰者ト承認スルハ其國ノ內政ニ對スル干涉ニシテ間接ニ反亂者ノ勢力ヲ援助スルノ結果ヲ生スルカ故ニ本國自ラ承認ヲ與ヘタルトキハ第三國ニ於テ交戰者ノ承認ヲ爲スコトヲ抗議シ能ハサレトモ本國ノ承認ニ先チ第三國ヨリ反亂者ヲ交戰者ト承認スルトキハ本國政府ノ恨ヲ來シ其抗議ヲ招キ往往其紛議ハ戰爭ト爲ルコトアリ然レトモ第三國ハ必スシモ本國ノ承認アリタル後ニ非サレハ自ラ承認ヲ與フヘカラサルニ非ス左ノ三條件ヲ具備スルトキハ本國ノ承認ニ先チ正當ニ自國ノ承認ヲ與ヘ得ヘキモノトス

第一　事實上兵力爭鬪ノ存在シ又繼續スルモノナルヘキコト換言セハ其反亂ハ容易ニ鎭定スヘカラサル狀態ナルコト

第二　其團體ニ於テ交戰者ト承認セラレ得ヘキ性質ヲ具備スルコト換言セハ其戰爭ハ本國ト他ノ國家トノ戰爭ト看做サレ得ヘキ程度ニ達シタルコト

第三承認國ノ交通通商上其利害關係ニ於テ反亂者ヲ交戰者ト承認スルノ必要ナル事情アルコト

此第一條件ノ結果トシテ他國ニ於ケル一揆暴動ノ如キ一時的ノ反亂ニシテ容易ニ鎮定シ得ヘキモノナルカ又ハ現ニ戰爭ノ行ハレ居ラサルトキハ第三國ハ交戰者ノ承認ヲ爲スコト能ハスシテ斯ル場合ニ於テハ縱令他ノ二條件ヲ具備スル他國ノ反亂者ニ付テモ第三國ハ其反亂者本國ニ對スル交誼上一時ノ不便不利益ヲ耐忍セサルヘカラス又第二條件トシテ凡テ承認ハ國家ノ承認タルト交戰團體ノ承認タルトヲ問ハス本國ヨリ之ヲ與フル場合ニ於テモ決シテ之ニ國家ノ獨立ヲ與ヘ又ハ戰爭ニ關シテ國家ノ有スヘキ權利義務ヲ取得スルノ性格ヲ交付スル所以ニ非ス却テ其團體ノ性格ハ斯ル權利義務ヲ有スヘキ性質ヲ具備スルノ事實ヲ認識スルニ止ルカ故ニ交戰團體ノ場合ニ於テモ其團體ノ實質上斯ル性格ナキ以上ハ縱令他ニ條件ヲ具備スルモ第三國ハ決シテ之ニ交戰者ノ承認ヲ爲スヘキモノニ非ス此故ニ反亂者カ一定ノ土地ニ割據シ特別ナル政府ヲ組織シ其團體ヲ代表シテ他國ニ對シ權利義務ノ關係ヲ有シ得ヘキ政治

機關ヲ具ヘ兵士ヲ募集シ軍隊ヲ組織シ文明國間ニ行ハルル戰爭ノ法則ニ從ヒ本國政府ニ對シ戰爭ヲ繼續スルトキハ甫メテ此條件ヲ滿タスヘク更ニ又第三條件ニ於テハ若シ第三國ノ人民及ヒ財產ニ關シ戰爭ノ遂行上直接ノ影響ヲ生シ其交涉事件ノ續續發生シテ之ヲ處理スルノ必要アルトキハ此條件ノ存在スルモノトス此三條件ヲ悉ク具備セサルトキハ第三國カ本國ノ承認ニ先チ交戰者ノ承認ヲ與フルモ正當ニシテ本國ハ之ニ抗議スルコト能ハス又抗議ヲ試ムルコトアルモ其抗議ハ斯法上正當ノ理由ナキモノトス殊ニ三條件中最モ重要ナルハ第三ノ條件ニシテ縱令第一及第二ノ條件ヲ具フル反亂者ト雖モ其戰爭行爲ノ影響ハ內地ニ限リ他國人民ニ直接關係ナキトキハ第三國ヨリ交戰者ノ承認ヲ爲スコト能ハス之ニ反シテ若シ戰爭カ自國境界ニ接近シテ行ハレ又ハ海上ニ於テ自國ノ船舶若クハ人民カ海上捕獲等ノ如キ戰爭行爲ノ直接ナル影響ヲ被ルトキハ其反亂者ヲ交戰者ト看做スト否トニ付キ大ナル利害關係ヲ有シ交戰者ト看做ササルトキハ之ヲ海賊トシテ處分スルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク然ルニ他國ニ於テハ斯ル團體カ公ナル政治上ノ目的ヲ以テ戰爭ノ法則ニ

依リ行動シ居ル場合ニ於テ其反亂ニ關シテ爭鬪者ノ孰レヲ正當ト看ルヘキカニ付キ判定ヲ爲スヘキ地位ニ立タス又其勝敗ハ孰レニ歸スルモ自國ニ直接關係ヲ有セサルニ拘ラス反亂者カ其戰爭ノ遂行ニ必要ナル行爲ヲ爲シタル事實ヲ目シ其戰鬪者ヲ海賊トシテ處刑スルニ忍フヘカラサルカ爲メ自ラ之ヲ交戰者ト承認スルハ正當ナラサルヲ得ス此問題ハ千八百六十一年南北戰爭ニ際シ英國カ同年五月南軍政府ヲ交戰者ト承認シタルニ付キ英米兩國間ニ紛議ヲ生シ其交渉ニ於テ充分ニ討議アリタル所ニシテ英國政府ノ交戰者ノ承認ヲ與ヘタルハ同戰爭ニ付キ英國カ海上ノ商業ニ於テ利害關係ニ少カラサル事件ノ續發シタル事情アリタルノミナラス北軍政府ノ米國大統領「リンコルン」ハ同年四月十九日及二十七日ノ宣言ヲ以テ南軍ノ諸港ヲ封鎖シ英國ノ宣言ニ先ツコト三週間ニ於テ南軍ニ對シ封鎖ナル交戰者タル權利ヲ行使シ南軍ヲ交戰者ト默認シタルカ故ニ英國ノ承認ヲ與ヘタルノ正當ナルコト一般ニ異論ナキ所トナレリ』

叛亂者ヲ交戰者ト認メ得ヘキヤ否ヤニ關シ今日國際公法上未タ一定セサル事項アリ即チ叛亂者カ一定ノ領土ニ割據スルコトナク單ニ軍艦ノミヲ以テ本國ニ反抗スル場合ニシテ千八百九十一年智利國ノ內亂ニ於テ叛亂者ハ當初軍艦ノミヲ率キテ大統領ニ反抗シタリシカ此反亂ハ暫クシテ陸軍モ加ハリタルニ由リ始メテ一定ノ土地ニ根據ヲ占メ第三國モ交戰者ノ承認ヲ與ヘタリ之ニ反シテ千八百九十三年伯剌西爾國ノ內亂ニ於テハ「メロ」及ヒ「ダガマ」ノ兩將軍ハ終始軍艦ノミヲ率キテ政府ニ反抗シタリシカ第三國ニ於テハ其叛亂者カ土地ヲ有セサルニ拘ラス交戰者タル承認ヲ之ニ與ヘ得ヘキヤ否ヤノ問題ヲ生シ其說二派ニ岐レ一ハ國際公法ノ觀念ハ凡テ領土主權ト離ルヘカラサルニ因リ土地ニ對シテ政治上ノ權力ナキ團體ハ交戰者タル制限的國家ノ權利ヲモ與フルコト能ハストシ一ハ叛亂者カ軍艦ノミヲ以テ戰爭行爲ヲ爲スモ中立國ノ商業ニ對シ大ナル利害關係ヲ有スルニ因リ反亂者タル其妨害者ヲ海賊トシテ取扱フカ又ハ其叛亂者ヲシテ第三國ノ利益ヲ妨害スル行爲ヲ爲サシメサルヘキ强制手段ヲ執ルニ非サレハ之ヲ交戰者ト看做スノ外ナキヲ以テ其承認ヲ與フルノ止ムヲ得サルモノトシ千八百九十三年及ヒ四年ニ於テ英米兩國及ヒ其他ノ艦隊ハ叛亂者カ「リヲ」港ヲ第三國ノ商業ニ對シ封鎖スルコトヲ禁シ遂ニ諸國モ交戰

者ノ承認ヲ爲サスシテ其內亂ハ鎭定セリ隨テ斯ル土地ヲ有セサル叛亂者ヲ交戰者ト承認シ得ヘキヤ否ヤノ問題ニ付テハ其法則一定セス今日ニ於テハ土地ニ根據ヲ有セサル叛亂者ハ其戰爭ヲ永續スルコト能ハサルヘキニ由リ容易ニ其承認ヲ爲サスシテ其鎭定ヲ待ツノ外ナキガ如シ

終ニ注意スヘキハ本國ニ對シ叛亂セル團體ヨリシテ戰爭中其團體ヲ交戰者ト看做サルヘキ承認ヲ自ラ進ンテ他國ニ要求スルノ權利アリヤ否ヤノ問題ニシテ一部ノ學者ハ其要求ヲ爲スノ權利アリトシ「ヴァテル」「マルテンス」等第十九世紀ニ至ル迄ノ學者ハ叛亂團體ニ於テ獨立ヲ宣言スルトキハ他國ハ之ニ對シ中立ヲ守ルヘキ義務アリトセリ其理由トシタル所ハ多數人民カ兵力ニ訴ヘ政治上ノ目的ヲ貫カントシテ本國ニ對シ戰爭ヲ爲スニ際シテハ本國ト雖モ其人民ヲ悉ク國法ニ照シ犯罪者トシテ處刑スルコトハ實行シ能ハス斯ク本國ニ於テスラ之ヲ刑罰ニ處スルハ人情ニ反シ忍フ能ハサル事情アルニ拘ラス況シテ其叛亂ノ當否ニ付キ判斷ヲ下スヘキ地位ニ居ラスシテ其成功ト否トニ付キ何タル利害關係ナキ第三國ニ於テ其團體カ戰爭行爲ノ爲メニ必要ナル障害ヲ自國

經濟學

法學士　山崎覺次郎　講述

第一編　緒論

第一章　經濟學ノ定義

第一節　經濟學ナル名稱

今日吾人ノ經濟學ト稱スルモノハ歐洲ノ文明東漸ノ際本邦ニ輸入セラレタルモノニシテ經濟學ナル名稱ハ素ト譯語トシテ用ヒラレタルニ創ル然レトモ經濟ノ二字ハ當時始メテ發生シタル新熟語ニ非ス經國濟民ノ二語ヲ約シタルモノニシテ其用ヒラレタルヤ久シ例ヘハ太宰春臺ハ其著書ニ經濟錄ナル名ヲ命シ開卷第一ニ「凡ソ天下國家ヲ治ムルヲ經濟ト云フ」ト曰ヘリ若シ此意義ヲ以テ

經濟學ヲ解スルトキハ法律政治ハ言フヲ俟タス倫理教育等モ亦經濟學ノ講究スヘキ範圍ニ屬スヘキモノニシテ原語ニ比シ意義廣漠ニ失スルモノトス故ニ之ニ代フルニ理財學ナル名稱ヲ以テセルコトアリシト雖モ是レ却テ意義偏狹ニ陷リ且財政學ト混同スルノ恐アルナリ此ノ如ク經濟學及ヒ理財學ノ名稱ハ共ニ正確適當ナラサルカ故ニ其間ニ優劣ナキカ如シト雖モ今日人人ノ普通使用スル經濟若クハ經濟的ナル文字ハ英語ノ「エコノミー」若クハ「エコノミック」ト同一ノ意義ヲ有シ經國濟民ノ舊義ヲ失セルカ如シ之ニ加フルニ經濟學ナル名稱ハ慣用日既ニ久シクシテ其行ハルルヤ廣ク隨テ世人ノ耳目ニ熟スルモノアルナリ故ニ新名稱ヲ斯學ニ付センヨリハ寧ロ經濟學ナル名稱ヲ襲用スルニ如カサルナリ

驟テ歐洲諸國ニ於ケル斯學ノ名稱ヲ見ルニ各國共ニ其數一ニシテ足ラス學者其適否ヲ論シテ所說ヲ同シウセス各其好ム所ニ從ヒテ選擇スルモノトス以テ完全無缺ノ名稱ナキヲ知ルヘキナリ

第二節　定義

經濟學ノ定義ヲ下セハ即チ左ノ如シ曰ク

經濟學トハ社會ニ於ケル經濟的現象ヲ講究スル科學ナリ

凡ソ事物ノ定義ヲ下スハ容易ノ業ニ非ス簡短ニ失スレハ其意味判明セス冗長ニ失スレハ記憶ニ便ナラス期スル所ハ所謂簡而盡矣ニ在リト雖モ其能ク然ルモノハ甚タ稀ナリ經濟學ノ定義モ碩學大家殆ト皆其言フ所ヲ異ニシ人ヲシテ大ニ選擇ニ苦マシム予カ右ニ掲ケタル定義ハ二三ノ經濟學者ノ所說ニ基キ之ヲ折衷シタルモノニシテ固ヨリ完全ヲ期セス殊ニ簡短ニ失スルノ譏ヲ免レサルヘシ然レトモ縱令數十百言ヲ列スルモ完全ナル定義ヲ得ルコト甚タ難キヲ以テ寧ロ簡短ナル定義ヲ下シ而シテ後ニ之ヲ說明セント欲スルナリ

第三節　定義ノ說明

何ヲカ經濟的現象ト謂フヤ曰ク人カ其欲望ヲ滿足セシムルカ爲メニ外界ノ實

物ヲ獲得利用スル之ヲ經濟的働作ト謂ヒ此働作ニ起因スル現象ヲ經濟的現象ト謂フナリ

抑モ人ノ世ニ在ルヤ生命ヲ維キ健康ヲ保チ娯樂ヲ求メ危難ヲ避ケ又ハ知識ヲ廣メ藝術ヲ修ムル等人生幾多ノ條件ト目的トヲ有スルモノニシテ此等ノ條件ヲ充タシ此等ノ目的ヲ達セントスルニ當リ種種ノ不足ヲ感スルモノトス而シテ此不足ノ感ト之ヲ充タサントスル念トヲ併セテ人ノ欲望トハ稱スルナリ此等ノ欲望中人ノ生レナカラニシテ有スルモノト慣習等ニ依リテ後ニ發生スルモノトアリ第一種ノ欲望ハ自ラ其數ニ限アリト雖モ第二種ノ欲望ニ至リテハ漸次增加シテ底止スル所ヲ知ラス是レ即チ人類ト他ノ動物ト異ナル所以ノ一ナリトス而シテ欲望ノ種類、强弱ハ各箇人ノ性質、年齡境遇、職業等ノ異ナルニ隨ヒ同一ナラサルノミナラス外界ノ狀況、開化ノ程度ニ因リテ亦異ナルモノナリ例ヘハ男子ト婦女、老者ト幼者、壯健ナル者ト虛弱ナル者、教育アル者ト無教育ナル者トヲ比較セハ欲望ニ差異アルヲ免レス熱帶地方ニ住居スル者ト温帶又ハ寒帶地方ニ住居スル者トヲ比較スルモ亦然ルヲ見ルナリ又野蠻蒙昧ノ時代ニ於テハ欲望ハ其數尠シト雖モ開化進歩スルニ隨ヒテ增加シ所謂開化ナルモノノ最モ顯著ナル目標ハ欲望ノ多種多樣ナルニ在リト謂フモ不可ナク今日ノ社會ニ於ケル人ノ欲望ハ千趣萬狀ニシテ到底一一之ヲ枚擧スルコト能ハサルナリ而シテ此等諸般ノ欲望ハ總テ之ヲ滿足スルコトヲ要スルモノニシテ若シ之ヲ滿足セシメサルトキハ人ハ或ハ不快ヲ感シ或ハ苦痛ヲ覺エ或ハ健康ヲ害シ甚シキニ至リテハ死亡ヲ來スコトアリトス然ラハ此等ノ欲望ハ如何ニシテ滿足セシメ得ルヤヲ觀ルニ欲望ノ大多數ハ飲食、衣服、住居及ヒ裝飾ニ關スルモノニシテ此等ノ欲望ハ外界ノ有形物即チ實物ヲ獲得利用スルニ依リテ之ヲ滿足セシムルモノトス

此ノ如ク人ノ欲望ヲ滿足スル力即チ效用ヲ有スル外界ノ有形物ヲ財貨ト稱シ更ニ之ヲ二種ニ區別シ第一種ヲ自由財貨ト名ク即チ天與ノ數量無限ニシテ何人モ隨意ニ之ヲ獲得利用スルコトヲ得ルモノナリ例ヘハ空氣、日光等ノ如シ其他土地、木材等ノ如キ數量ニ限アルモ人口稀薄ナル時ニ當リテハ事實上無限ニ等シキヲ以テ自由財貨ニ屬スルモノニシテ水ノ如キ今日仍ホ自由財貨タル場

合多シ第二種ノ財貨ハ其數量ニ限アリテ隨意ニ之ヲ獲得利用スルコト能ハサルモノナリ今日ノ社會ニ於テハ吾人ノ欲望ヲ滿足セシムル實物ノ多數ハ第二種ニ屬スルモノニシテ此種類ノ實物ヲ經濟的財貨ト名ケ單ニ財貨ト謂フトキハ通常此種ノ財貨ヲ指スモノトス自由財貨ハ何人モ隨意ニ之ヲ獲得利用スルコトヲ得ルカ故ニ人ヲシテ毫モ不足ノ狀態ニ陷ラシムルコトナシト雖モ經濟的財貨ニ至リテハ然ラス多少ノ犧牲ヲ供スルニ非サレハ之ヲ獲得利用スルコト能ハス隨テ常ニ不足ノ狀態ニ陷ラントスルノ恐アリトス是レ即チ經濟的働作ノ起ル主因ニシテ經濟的働作ノ目的物ハ專ラ經濟的財貨ニ在リト謂フモ不可ナキナリ

經濟的財貨ハ人ノ欲望ヲ滿足セシムルノ能力ヲ有シテ而シテ後ニ財貨ト爲ルコトヲ得ルモノナルカ故ニ財貨ノ種類モ亦欲望ノ種類ノ增加ニ伴ヒテ增加シ野蠻時代ニ於テハ欲望ノ種類多カラサルヲ以テ財貨ノ種類モ尠シトス然ルニ文化進歩シテ人類ノ欲望增加スルト共ニ外界ニ於ケル實物ノ性質ヲ知リテ之ヲ利用スルノ方法モ益〻增加スルヲ以テ財貨ノ種類數量兩ナカラ益〻增加セサルヲ得サルナリ例ヘハ煙草ノ如キ他ノ雜草ト共ニ數千年來存在シタルコト疑ナシト雖モ其財貨ト爲リタルハ人カ其性質ヲ知リ同時ニ喫煙ノ欲望ヲ生シタル時ニ在リト謂ハサルヘカラス其他世ニ所謂廢物利用ナルモノハ從來廢棄セラレタル實物ニ欲望ヲ滿足スルノ能力アルコトヲ發見シテ之ヲ財貨ト爲スニ外ナラサルナリ之ニ反シテ從來財貨タリシ物モ後ニ財貨タルノ性質ヲ失フコトアリ例ヘハ漢法醫ノ用ヒタル草根、木皮ノ如キハ或ハ既ニ財貨ト稱スルコト能ハサルモノアラン

數量有限ノ實物ノミヲ以テ經濟的財貨ト爲スコトハ右ニ述ヘタルカ如シト雖モ無形物ヲモ經濟的財貨ニ加フル經濟學者亦尠カラス若シ人ノ欲望ヲ滿足セシムル物件ハ總テ財貨ナリト稱スルトキハ財貨ハ必スシモ有形物ニ限ラサルナリ例ヘハ人ノ有スル知識、腕力、熟練等ハ皆欲望滿足ノ爲メニ用フルコトヲ得ルカ故ニ財貨ト謂ハサルヘカラス三ノ經濟學者ハ此種類ノ財貨ヲ稱シテ內部ノ財貨ト謂フ又國家ノ行政機關ノ如キ著作權、專賣權等法律上ノ權利ノ如キ商家ト顧客トノ關係ノ如キ是レ亦財貨ナリト爲ス者アリ又他人ノ勤勞例ヘハ

車夫ノ勞働、醫師ノ診察、官吏、兵士ノ勤務ノ如キモ之ヲ享受スル者ヨリ觀レハ亦一種ノ財貨ナリト爲ス者アルナリ

右ノ如ク財貨ナル文字ヲ廣義ニ解スルトキハ有形、無形共ニ財貨ト稱スヘキヤ疑ナキナリ然レトモ有形、無形共ニ經濟的財貨ト爲シ皆經濟學講究ノ範圍ニ容ルルトキハ經濟學ハ極メテ雜駁ナル科學ト爲ルニ至ラン何トナレハ經濟學ハ他ノ科學ノ領域ヲ蠶食シ社會ニ於ケル現象ハ殆ト皆之ヲ講究セサルヘカラサレハナリ是レ蓋シ經濟學ヲシテ專門ノ一科學タル性質ト價値トヲ失ハシムルノ所以ナルカ故ニ有形物ノミヲ以テ經濟的財貨ト爲シ無形ノ財貨ニ關スル講究ハ主トシテ之ヲ他ノ科學ニ委任スルヲ要スルナリ翻テ無形物ヲ財貨ニ算入スル經濟學者ノ著書ヲ見ルニ其財貨ノ生產、財貨ノ交易、財貨ノ分配及ヒ財貨ノ消費ヲ論スルニ當リ有形的財貨ノ生產、交易、分配、消費以外ニ及フモノハ殆ト稀ナリ

或ハ曰ク經濟學ハ勞働ヲ論スルニ非スヤ而シテ勞働ハ無形ノ財貨ニ非スヤト然レトモ經濟學ハ有形的財貨ヲ生產スル一要素トシテ勞働ヲ論スルモノニシ

雜報

○本大學ノ沿革　明治三十六年八月二十八日文部大臣ノ認可ヲ得テ從前ノ和佛法律學校ヲ大學組織ト爲シ校名ヲ改メテ法政大學ト稱セリ是レ我法律學界ノ隆昌ヲ示スモノニシテ國家ノ爲メ諸君ト共ニ慶賀セサルコトヲ得サルナリ抑モ本大學ノ今日アルニ至レルハ其沿革頗ル古ク其創設ハ實ニ明治十二年ニ在リ即チ同年二月薩埵正邦、橋本胖三郎、大原鎌三郎、堀田正忠、金丸鐵、伊藤修ノ六氏一法律學校ヲ神田區駿河臺西紅梅町ニ設立シ名ケテ東京法學社ト稱セリ同十四年五月同區錦町ニ移轉シ東京法學校ト改稱シタリ後同區小川町ニ移轉シ二十二年五月東京佛學校ト合併シテ和佛法律學校ト稱シ同區柳原河岸ニ移轉シ二十三年七月現今ノ處ニ移轉シタリ東京佛學校ハ明治十九年四月辻新次、山崎直胤、長田銈太郎、平山成信、寺內正毅、古市公威、粟塚省吾七氏ノ設立ニ係リ佛蘭西語ヲ以テ普通學科ヲ敎授スルヲ目的トセリ二校ノ合併成ルヤ邦語竝ニ佛語ヲ以テ法律學及ヒ經濟學ヲ敎授シ且佛語ヲ以テ普通學科ヲモ敎授シタリ中

頃佛語科ヲ廢シ專ラ邦語ヲ以テ法律學並ニ經濟學ヲ教授シ來リタルカ三十三年十一月英佛獨三國語學科ヲ、翌年九月更ニ漢文學ノ一科ヲ隨意科トシテ教課目ニ加ヘタリ今ヤ校運益〻隆盛ニ趨キ茲ニ大學ノ組織成ヲ告ケ大學部、專門部、高等研究科及ヒ大學豫科ノ四部門ヲ設ケタリ

○新學年授業開始　本大學專門部新學年ノ授業ハ去ル九月十一日ヲ以テ開始セリ當日總理梅博士ニハ特ニ出校ノ上新入學生ニ對シ先ツ本大學ノ來歷ヲ叙述シ進ミテ法學研究ノ方法ニ付キ自己ノ實驗上ヨリ種種叮嚀ナル訓誨ヲ與ヘラレタリ尙ホ大學豫科第二期ノ授業ハ去ル五日ヨリ開始セリ

○討論會及ヒ講談會　本大學ニ於テハ學生辯論練磨ノ爲メ各級又ハ聯合ノ討論會ヲ組織シ每月數回有益ノ問題ニ付キ討論ヲ爲シ來リシカ新學年開始後ノ第一回ハ去ル三日(土曜日)午後六時ヨリ塚田講師ノ出題ニ係ル左ノ問題ニ付キ討論ヲ爲シタリ

當事者カ法律行爲ノ當時既ニ確定セル事實ヲ知ラスシテ條件ト爲シタルトキハ其法律行爲ハ條件離法律行爲ナルヤ

尙ホ本大學ニ於テハ學生法學研究ノ參考ニ資スルカ爲メ時時講師其他ノ大家ヲ聘シテ講談會ヲ開キ來リシカ新學年開始後ノ第一回ハ來ル十八日午後一時ヨリ開會ノ筈ニテ其出席講師ハ田中ドクトル、加藤學士、筧學士、松波博士ノ四氏ナリ

○判檢事試驗及ヒ辯護士試驗　同試驗ハ去ル九月二十一日ヨリ本月一日マテ司法省ニ於テ執行セラレタリ今參考ノ爲メ其問題ヲ掲クレハ左ノ如シ

憲法

第一問　司法權ノ範圍ヲ論セヨ

第二問　憲法第二十七條ニ依ル所有權不可侵ノ範圍如何

行政法

第一問　官吏タル資格ノ得喪ノ原因竝ニ其時期ヲ說明スヘシ

第二問　行政廳ノ處分ニ對シ不服ナル場合ニ於テハ如何ナル方法ニ依リ救濟ヲ求ムルコトヲ得ルヤ

民法

第一問　轉貸ノ性質如何

第二問　主タル債務ニ取消原因存スルトキ保證人ハ之ヲ取消スコトヲ得ルヤ

民事訴訟法

第一問　證書訴訟ノ訴狀ニ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ揭ケサルトキハ裁判所ハ如何ナル處分ヲ爲スヘキヤ

第二問　取立命令ヲ得タル債權者カ債權ノ取立ノ爲メ第三債務者ニ對シテ訴ヲ提起スル場合ハ債務者ノ代理人ナリヤ將タ編立ノ當事者ナリヤ

商法

第一問　各株主ハ毎事業年度ニ一定ノ利息ノ配當ヲ受クヘシトノ定款ノ規定ハ有效ナリヤ

第二問　裏書ヲ禁スル旨ヲ記載シタル手形ト單純ナル記名式ノ手形トハ其移轉ノ規定ニ於テ如何ナル差異アリヤ

刑法

第一問　錯誤ト犯罪トノ關係ヲ說明セヨ

第二問　被害者ノ承諾カ犯罪ノ成立ニ及ホス效力如何

刑事訴訟法

第一問　刑事訴訟ニ於ケル檢事及ヒ辯護人ノ地位如何

第二問　免訴ノ確定終結決定及ヒ公判ニ付スル確定終結決定ノ確定力ヲ說明スヘシ

國際公法

第一問　國力均勢ハ國際公法ノ發達及ヒ實行ニ付キ如何ナル關係ヲ有スルヤ

第二問　一國ハ他國ニ對シ如何ナル行爲ニ付キ責任ヲ負フヤ

國際私法

第一問　物權ノ得喪變更ヲ目的トスル法律行爲ノ效力ニ付テハ何レノ法律ニ依ルヤ

第二問　外國ニ於テ宣告セラレタル破產ハ日本ニ於テ如何ナル效力ヲ有スルヤ

◎廣告（特價ハ總テ本大學校友、生徒、校外生ニ限ル）

法學博士　梅　謙次郎氏著

民法要義

卷之一總則編　定價金壹圓貳拾錢　郵稅金壹圓五拾錢　特價金拾貳錢
卷之二物權編　定價金壹圓五拾錢　郵稅金壹圓參拾四錢　特價金壹圓貳拾錢
卷之三債權編　定價金貳圓七拾五錢　郵稅（小包）金拾五錢　特價金壹圓四拾七錢
卷之四親族編　定價金壹圓七拾錢　郵稅金拾四錢　特價金壹圓五拾錢
卷之五相續編　定價金壹圓參拾五錢　郵稅金壹圓貳拾四錢　特價金壹圓貳拾錢

法學博士　梅　謙次郎氏著

民法原理

總則編卷之一　定價金壹圓　郵稅金九拾錢　特價金八拾錢

以下近刊

法學博士　志田鉀太郎氏著

志田氏商法要義

卷之一總則編　定價金五拾錢　郵稅金四拾錢　特價金六拾錢
卷之二會社編上　定價金七拾五錢　郵稅金六拾錢　特價金六拾錢

以下近刊

法學士　古賀廉造氏著

改版刑法新論

總論之部　定價金貳圓五拾錢　郵稅（小包）金壹圓六拾五錢　特價金拾五錢
各論之部　近刊

法學士秋山雅之介氏著

國際公法

平時之部　定價金貳圓拾錢　特價金壹圓七拾五錢　郵稅（小包）金拾五錢

戰時之部　定價金貳圓八拾錢　特價金壹圓參拾五錢　郵稅（小包）金拾五錢

法學士入江良之氏譯

アッセルリヴィエー國際私法要論

全一冊　定價金七拾五錢　特價金六拾錢　郵稅金八錢

法學士岡村司氏著

法學通論

全一冊　定價金貳圓　特價金壹圓六拾錢　郵稅（小包）金拾五錢

梅博士毎號執筆

法學志林

毎月一回十五日發行

定價一部前金拾參錢（郵稅共）　特價十部前金壹圓貳拾錢（郵稅共）

○本誌ハ本大學講師其他ノ諸大家ノ執筆ニ係ル論說、質疑解答、飜譯、寄書、最近判例、雜報、本大學記事等ヲ掲載スル雜誌ニシテ攻法家ノ座右ニ缺クヘカラサル好伴侶タリ

第四十九號　豫告（十月十五日發行）

○最近判例批評　法學博士　梅謙次郎

○日本ニ於ケル過去及ヒ現在ノ領事裁判　法學博士　中村進午

○滿州問題ノ經濟觀　法學博士　金井延

○民法雜說　法學士　荒井賢太郎

其他解疑、寄書、判例、雜報、記事等

私立法政大學一覽（法學志林第四十八號臨時增刊）

（盟ノ者ニハ本號ニ限リ實費金五錢ニテ送付ス〈シ〉）

○本校改稱ノ來歷○法政大學摘要○沿革略○法政大學學則○職員○本學年擔當講師○大學豫科擔當講師○法政大學校規則○三十七年度講義錄各學年擔任講師○法政大學校友會規則○雜報○記事

發行所　司法省指定　文部省認定　私立法政大學

○稟告

（本講義錄第一號ハ本月一日ヲ以テ發行スヘキ筈ナリシモ新學年ノ始ヲ未タ各學科ノ講義極メテ僅少ナリシヲ以テ其上梓ノ運ニ至ラス爲メニ發行期日ヲ繰下ケタレトモ漸次講義ノ進捗ト共ニ不足分ハ追テ臨時回數ヲ增加シ補充ヘキニ付キ此旨特ニ了知セラレタシ）

學生募集

○專門部　正科生、別科生共缺員アリ臨時入學ヲ許ス

○高等研究科　來ル十一月新學年授業開始

○聽講生　聽講生ハ隨時入學ヲ許ス

右入學志願者ハ至急申込ムヘシ詳細ノ學則入用ノ向ハ郵券金二錢ヲ送付スヘシ

○校外生　新學年開始ニ際シ校外生ヲ募集ス入學志望者ハ至急申込ムヘシ

三十七年度講義錄ハ之ヲ三學年ニ分チ各學年共十月ヨリ毎月三回發行滿一箇年ヲ以テ完結ス月謝金ハ各學年共金五十錢但官公衙在職者（證明書ヲ要ス）及ヒ校友ノ紹介アル者ハ金四十五錢トス總テ入學金ヲ要セス

十月　司法省指定　文部省認定　私立法政大學

校外生規則摘要

一　講義錄ノ種別及發行期日ハ左ノ如シ

第一學年講義錄　毎月一日　十一日　二十一日
第二學年講義錄　同　五日　十五日　二十五日
第三學年講義錄　同　八日　十八日　二十八日

一　校外生ハ本大學講談會及討論會ニ出席傍聽スルコトヲ得又本大學ノ出版ニ係ル書籍及雜誌類ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得

一　一个年以上引續キ本大學ノ校外生タル者ニシテ本大學ニ入學スル者ハ入學金ヲ免除ス

一　在學中ニ宿所ヲ轉シ又ハ氏名ヲ改メタルトキハ直チニ新舊ノ宿所氏名ヲ詳報スヘシ

一　月謝金ハ各學年金五拾錢トス毎月末日迄ニ翌月分ヲ前納スヘシ但數月分ヲ前納スルモ妨ナシ

一　郵便爲替ヲ以テ月謝金ヲ納付スルトキハ飯田町郵便局拂本大學會計局宛ニテ送付スヘシ（若シ郵便切手ヲ以テ納付スルトキハ必ス壹錢切手ニテ一割增トス）

一　質疑ハ講義錄ニ掲載スルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得質疑信書ニハ講義錄ノ當號科目頁數及疑問ノ要點ヲ明瞭ニ記載シ相當郵劵ヲ添ヘテ本大學編輯局宛ニテ送付スヘシ

（明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可
毎月九回一日五日八日十一日十五日十八日廿二日廿五日廿八日發行）

明治三十六年十月十日印刷
明治三十六年十月十一日發行　（定價金貳拾錢）

東京市牛込區牛込北町十番地
編輯兼發行者　萩原敬之

東京市牛込區矢來町三番地
印刷者　小宮山信好

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
印刷所　金子活版所

東京市麴町區富士見町六丁目十六番地
發行所　司法省指定　法政大學
（電話番町百七十四番）